

Tyrrell P34 SIX WHEELER

ITEM 12021

1:12 SCALE

Length 336mm
Width 168mm
Height 83.5mm

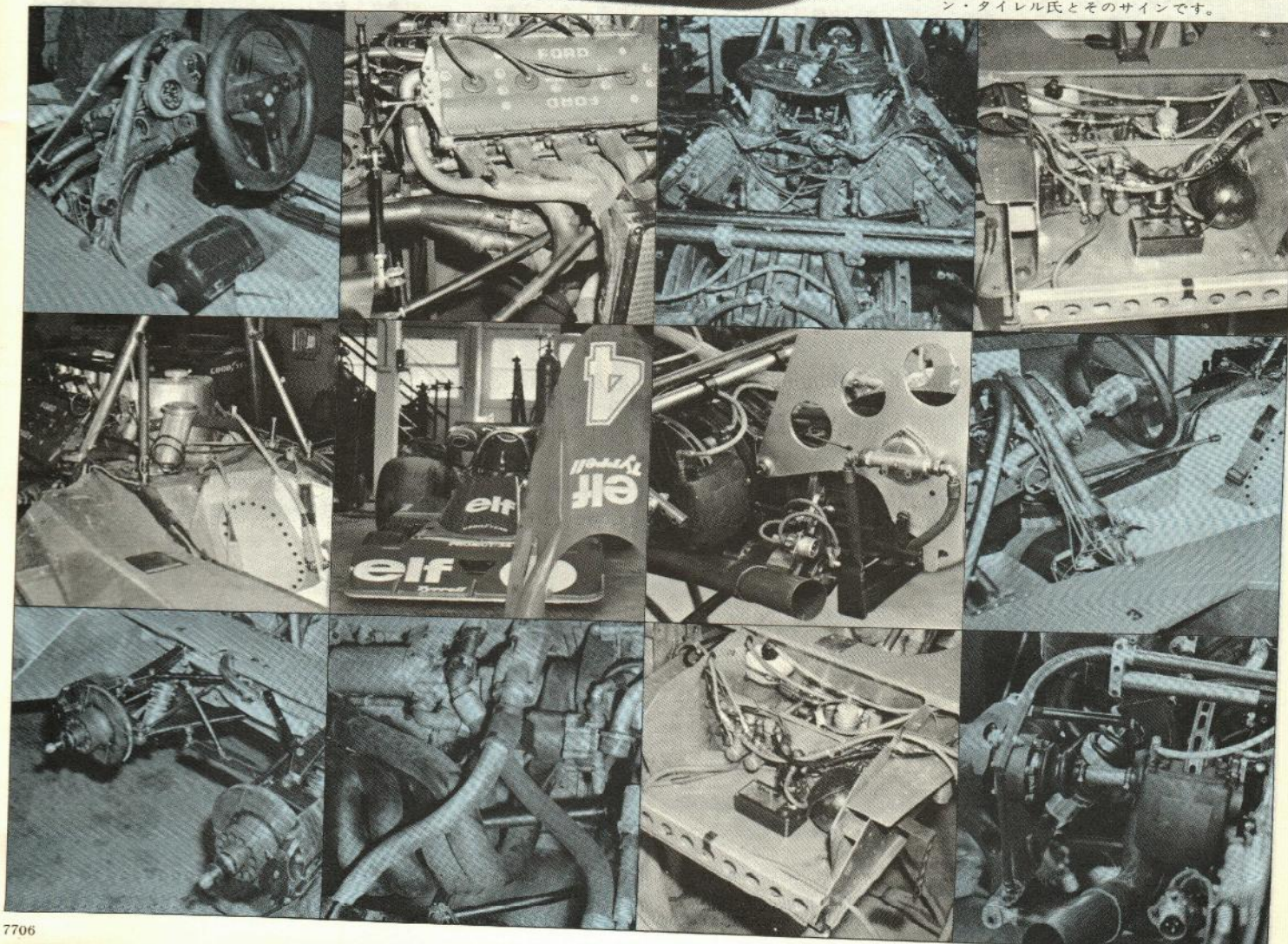
○ SUPER DETAILED FORD D.F.V. ENGINE
○ MOVABLE FRONT & REAR SUSPENSION
○ STEERABLE FRONT WHEELS
○ DETACHABLE BODY PANELS

BIG SCALE 1/12 ★ ★ **TAMIYA**
TAMIYA PLASTIC MODEL CO.
3-7 ONDAWARA, SHIZUOKA-CITY, JAPAN

タイレルP34シックスホイーラー



このキットはタイレル・レーシング・オーガニゼーションとの独占契約によりモデル化されたキットです。左上の写真はオーナーのケン・タイレル氏とそのサインです。



Tyrrell P34 SIX WHEELER



1976年6月13日は、グランプリ・レースの歴史に長く記録される日となることだろう。この日、アンダーストップ・サーキットで行なわれたスウェーデン・グランプリで、そのデビュー以来、様々な論議を呼んできた6輪グランプリ・マシン、タイレルP34が初優勝をとげたのである。実戦デビューからわずかに4戦目、しかも1、2位を独占するという鮮やかな勝利だった。

6輪車のデビュー

スウェーデンでの勝利から約10ヶ月前にさかのぼった1975年9月22日、チーム・タイレルは、ロンドンのヒースロー・ホテルにジャーナリストやレース関係者を招待し、開発中のニュー・マシンを発表した。この発表は、かつてクーバーがF-1にはじめてミッド・シップ方式でエンジンを搭載した時や、ロータスがモノコックシャーシをF-1に採用した時と同様に、大きなショックをレース界に与えることになった。

その発表は、実に演出効果満点のものだった。壇上におかれたニュー・マシンは、すっぽりとシートでおおわれていた。ケン・タイレルが挨拶に立ち、2人のメカニックがマシンをおおったシートをゆっくりと後部からはがしはじめる。ウイング、エンジン部分は、それまでのタイレル007と大きな違いはない。濃紺のボディ・モノコック部分が見えはじめボディ・サイドの張り出しの前方に小さな車輪があらわれる。一瞬、会場は静まり返り、入場者の視線は、マシンの前部に集中する。さらにシートがはがされる。すると、その前方にはもう1組の小さな車輪がついているではないか……。やがて会場は騒然としたざわめきにつつま込まれた。冗談に違いないと笑い合うものもいた。またスポンサーの気をひくためのスタンド・プレイと考えるものさえいた。しかし、チーム・タイレルのこれまでの堅実なやり方を知る人々は、このニューマシン、プロジェクト34を真剣に受けとめ、それが生れるにいたった納得できる理由を考えはじめていた。とはいえ、そのいずれの人々も、実際は半信半疑だったろう。重量物用の大型トラックならまだしも、4つの前輪を持つF-1などかつて存在したこともなく、



プロジェクト34 プロトタイプ

にわかに信じられないのも当然だった。しかし、それはチーム・タイレルの主任設計者デレック・ガードナーが長い間あため続けてきたアイデアが、ようやく実を結んだ姿であった。

前4輪のアイデア

デレック・ガードナーは、彼がチーム・タイレルに加わった1970年当時から6輪マシンの構想を持っていたと言われる。そしてタイヤ・メーカーの協力が得られるようになって、1974年8月からプロジェクト34の本格的な設計作業が始められた。ガードナーによると、その狙いは、フロント部分の空気抵抗を減少させて最高速度をかせぐと共に、前輪の接地面積（路面に接している広さ）を増大させてコーナリング性能を向上させることにあり、

あわせてブレーキング性能もより良くなるとされている。

F-1マシンのフロント部分の空気抵抗を考えると、まず問題になるのは前輪のタイヤである。実際、むき出しになったタイヤの抵抗は大きく、F-1のフロント部分の空気抵抗のうち、5割近くがタイヤによるものと言われている。ではフロント・タイヤを細く、径の小さなものにしたらどうだろう。空気抵抗は、かなり減るはずだ。さらに前から見てタイヤがかくれるように、スポーツカー・ノーズのような大型のノーズ・カウリングをつけてみよう。いっそう効果があるはずだ。しかし、そのままでは大変な問題が起きってしまう。強度のアンダー・ステアの発生である。つまり、ハンドルを切って前輪の向きを変えても、車体の向きは変わらない。それだけでなく現在のF-1マシンの多くは、過度のアンダー・ステアに悩まされている。この原因は、後輪にくらべて前輪のグリップ力（路面をつかむ力）が少ないことにある。このグリップ力を増大させるには、基本的にはできるだけ太く大きなタイヤをつけて接地面積を増し、適度な重さをかければよい。F-1マシンでは、エンジンの出力は500馬力にも達する。この大出力を確実に路面に伝えるために後輪には接地面積の広い太く大きなタイヤを使い、車体重量も前輪より多めにかけてグリップ力を高める。ところが前輪のタイヤは接地面積を増すためといっても、むやみに大きくはできない。それは、ただちに空気抵抗の問題にぶつかるからだ。トレッド（左右の車輪の間隔）を広げるのもコーナリング性能を上げるためには効果的であるが、空気抵抗から見れば好ましくない。また車体重量を前輪にかけすぎれば、後輪とのバランスをくずしてかえって悪い結果が生れる。こうしたことから、F-1マシンの多くはどうしてもアンダー・ステアに悩まされることになる。その上、空気抵抗の減少に効果的だからといって、前輪のタイヤを小さくしたらどうなるだろう。接地面積の減少によって前輪のグリップ力は極度に低下し、いくらハンドルを切ってもまったくまがらないマシンが生れることになってしまう。

前輪タイヤを小さくするのは、空気抵抗を減少させるには確かに効果的だ。では、それによって低下する前輪のグリップ力は、何でおぎなえばよいのか。その答えが、ガードナーの前4輪のアイデアであった。つまり、もう1組、同じような小径のタイヤを持つ前輪をつけ足してやる。確かに小径タイヤでは1輪あたりの接地面積は減るが、4輪とすればその合計の接地面積はこれまで以上にふやすことができ、グリップ力を高めてアンダー・ステアをおさえることができる。実際、P34



【主要データ】

シャーシ……アルミ合金モノコック
 全長……3940mm
 全高……990mm
 ホイルベース……第1軸まで 2453mm 第2軸まで 1993mm
 トレッド……前 1260mm 後 1470mm(18インチリム使用時)
 サスペンション……前 ダブルウィッシュボーン リンク結合
 後 パラレルダブルウィッシュボーン コニ、ダブルスプリングダンパー

エンジン……フォードコスワースDFV V8 2993cc
 ギヤボックス……ヒューランド FG400 5速
 タイヤ・ホイール……グッドイヤー 前 8-9J-10インチ
 後 17-20J-13インチ
 ブレーキ……前 ロッキード2ポッド式 径203φ
 後 ロッキード4ポッド式 径265φ

の前4輪の接地面積の合計は、通常の前輪タイヤ2輪分の合計より、4割ほど多いと言われるのである。

前輪のグリップ力が高まれば、ブレーキのききもよくなる。また4輪にブレーキをつけたことでブレーキ力も大きくなる。前輪が小さくなったことでブレーキも小型のものになるが、その4つのブレーキ力の合計では、これまでのF-1につけられていたより大型の前輪用ブレーキの2つのブレーキ力を上回る。

さらに前4輪のアイデアは、安全性の点でも利点がある。通常の2輪では、タイヤの片方がパンクしてしまえばマシンのコントロールは非常に難しくなり、悪くすれば事故につながる。一方、4輪では1つのタイヤがパンクしても他の3つで操縦性を保つことができ、事故につながる可能性は少ない。また、それほど時間を食わずにタイヤ交換のためにピットに戻ることもできる。タイヤ・トラブルによる事故やリタイヤが少なくない現在のF-1レースでは、これは非常に有利なことと言えるだろう。

こうしてみるとガードナーのアイデアは、確かに正しいように思える。しかし、前4輪としたことによって考えられる問題点も少なくない。まず、構造が複雑になることで、どうしても重量が増加し、それだけエンジン・パワーがロスする。また整備、点検もやっかいになる。さらに大きなノーズ・カウリングの背後におかれることになったブレーキの冷却、そして前輪の前側と後側のブレーキ力の配分をどうするか、困難な問題となる。

テスト、そして実戦へ

タイヤレP34は、本当に実戦に通用するのだろうか。すばらしいと思われていたアイデアが実際のレースでは無残な失敗に終わった例は、これまでに決して少なくない。6輪であるために生じる様々な問題を解決して、グランプリ・レースでの勝利を得ることができかどうか、多くのレースファンやジャーナリストは、期待と疑いの入りまじった複雑な気持ちで、P34の実戦デビューを待ったに違いない。

P34のテストは、75年シーズンの最終戦が終るのを待って開始された。Pの文字がプロジェクトの頭文字であるように、P34は実験的なマシンとしての色彩が濃いものであった。このテスト以前に実際に走行したことは一度もなく、タイヤレもガードナーも、開発には

まだ時間がかかるものと考えていた。しかしテストの結果は期待以上の好成績で、実戦マシンとしての開発は急速に進められることになった。

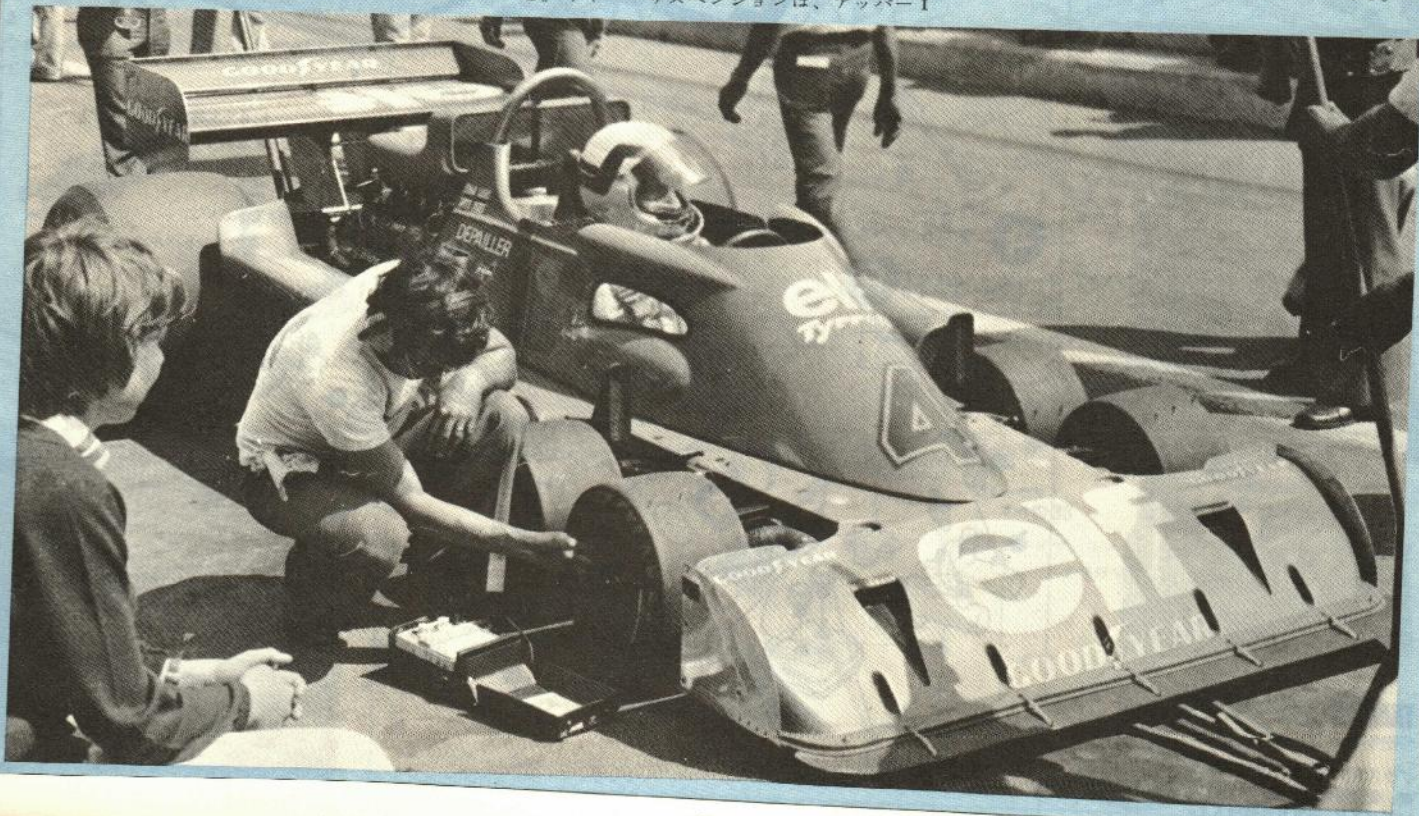
まず、フレームがまったく新しい構成のものとなった。プロト・タイプでは、単純な長方形断面のチューブを2本ならべたようなツイン・チューブ・モノコックであったものが三角形断面のツイン・チューブとなり、その内部にガソリン・タンク、衝撃吸収材が内蔵された。ガソリン・タンクの容量は、プロトタイプでは試験用ということで約61リしかなかったが、これは約191リにふやされた。外見上、最も大きく変わったのは、ボクシング・ミッドシップ・フレームではモノコック・フレームの中央部、長方形断面のツイン・チューブがそのまま表面にあらわれ、低く、平らな張り出しになっていた。この部分は、変更されたフレームでは三角形断面になっており、サイド・カウリングがつけられる。このカウリングは、肩の部分が盛り上った形をしており、前後輪のタイヤ間の気流を整える働きを持つと言われる。ノーズ・カウリングは、デル・ノーズ風のものが試されたが、再びプロト・タイプによく似たスポーツカー・ノーズにもどされた。ただ全体に小型になり、ブレーキ冷却用のNACA型ダクトは左右2個にふやされた。さらにドライバーの希望によって、前輪の動きを見るための小窓が、コクピット両側面に設けられた。こうした細かな改良はあったものの、前4輪システムを採用したことによる致命的な問題は起らなかった。フロント・サスペンションは、ローワー・Aアームとアルミ削り出しのアップパー・アームにコイル・ダンパー・ユニットの組み合わせでそれ自体は、F-1のフロント・サスペンションとしては特に変ったものではない。前輪の前側と後側では、このサスペンションが前後を逆にしたような形できりつけられる。4輪のステアリング・システムは、ごくシンプルに構成されている。前側の前輪のアップライトには前後にタイロッドがつけられ、前側のタイロッドはステアリング・ギヤボックスへ、後側のタイロッドはベルクランクの前端に接続する。このベルクランクの後端は、後側の前輪のタイロッドにつながる。ステアリングの動きは、まず前側の前輪に伝えられそこからタイロッド、ベルクランクをへて後側の前輪に伝えられ、4輪すべての向きが変わる。リヤ・サスペンションは、アップパー・I

アームとラジヤス・ロッド、ローワー・パラレル・リンクとラジヤス・アームにコイル・ダンパー・ユニットの組み合わせで、これもごく標準的な構成となっている。こうして見るとP34は、前輪が4つある以外は極めてオーソドックスな成り立ちのマシンと言える。前4輪のアイデアが画期的なものであるだけに他の部分にはすでに実績のある、また性質もよく解っているメカニズムを採用した方が開発は早く、確実に行なえるし、またそれによってP34は成功したとも言えるだろう。

タイヤレP34は、1976年シーズンの第4戦5月2日のスペインG・Pから実戦に登場した。この時は、マシンが1台しか間に合わず、パトリック・デパイユがP34に乗って予選3位。本レースではブレーキ・トラブルのためにリタイヤに終わったが、その実力の一部を見せつけることになった。次のベルギーG・Pからは2台のP34がエントリーされることになり、ジョディ・シェクターが4位入賞、モナコではシェクターが2位、デパイユが3位となり、6輪車がグランプリ・レースでトップを争う力を持つマシンであることに疑いを持つものは、もはや誰もいなかった。そして第7戦のスイス・デニッシュG・Pでは、シェクター1位、デパイユ2位のワン・ツー・フィニッシュでグランプリ初優勝を飾り、前4輪のアイデアの有効性を実証したのである。

1976年シーズン、シェクターはP34で1位1回、2位4回、4位2回、5位3回を記録。デパイユも2位に2回、3位に1回、6位に1回入賞し、チャンピオン・ポイントでもそれぞれ3、4位を記録した。またコンストラクターズ・カップでもタイヤレは3位に入っている。これは、フェラーリ、マクラーレンに次ぐ成績であることを考えれば、デビュー1年目としてはまさに見事なものと言えるだろう。

P34のデビューに刺激されてか、マーチやフェラーリでも後4輪ではあるが6輪マシンが試作されている。1977年シーズン、チーム・タイレルにはジョディ・シェクターに代ってロニー・ピーターソンが加わり、ニューマシンも製作された。デレック・ガードナーによれば、P34は、6輪車としての持てる力をまだ十分に引き出してはいないといわれる。タイヤレP34は、F-1マシンの歴史に新しい1ページを書き加えた。しかし、そのページは、まだ始まったばかりなのである。



作る前に必ず
お読み下さい。

★お買い求めの際、または組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組み立てを始められた後は、製品の返品、交換などに応じかねます。

★タミヤからはピン入りの接着剤タミヤセメントが別売されております。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。

★キットを組立てる前に説明文をよく読んで下さい。

★ナイフ、ピンセット、ヤスリ、小型ドライバー等を用意します。

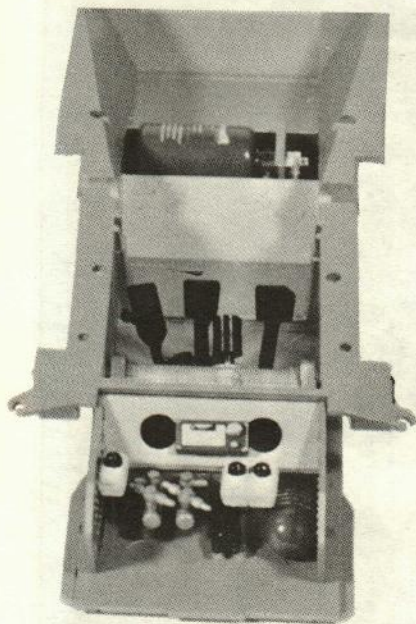
★部品をランナー（枝）から切りはなす場合は手でもぎとらないで、ナイフやニッパーでいねいに切り取って下さい。

★組立図中の青く印刷された部分は接着面です。

●このマークは塗装指示のマークです、全体の塗装と各塗装色はP17のペインティングを参考にして下さい。各部の塗装指示は組立図中と部品図にすべてタミヤカラー（アクリル塗料、ペイントマーカー、エナメル塗料、タミヤスプレーカラー）の色名で指示してあります。

★塗料は、必ずプラスチックモデル用塗料をお使い下さい。

③ 〈シャシーのくみ込め〉
L4は左右4個つけます、シャシー下をとりつける前に入れておきます。



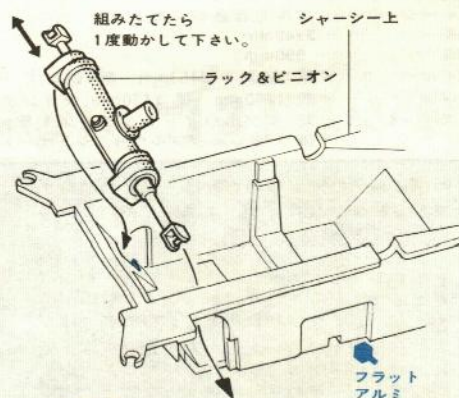
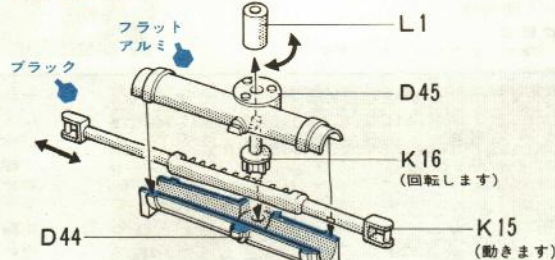
TAMIYA CEMENT 40ml
タミヤセメント（ピン入り）

プラスチックモデル用液体接着剤。安定性のいい使い易い四角いピン入り、容量もお徳用です。



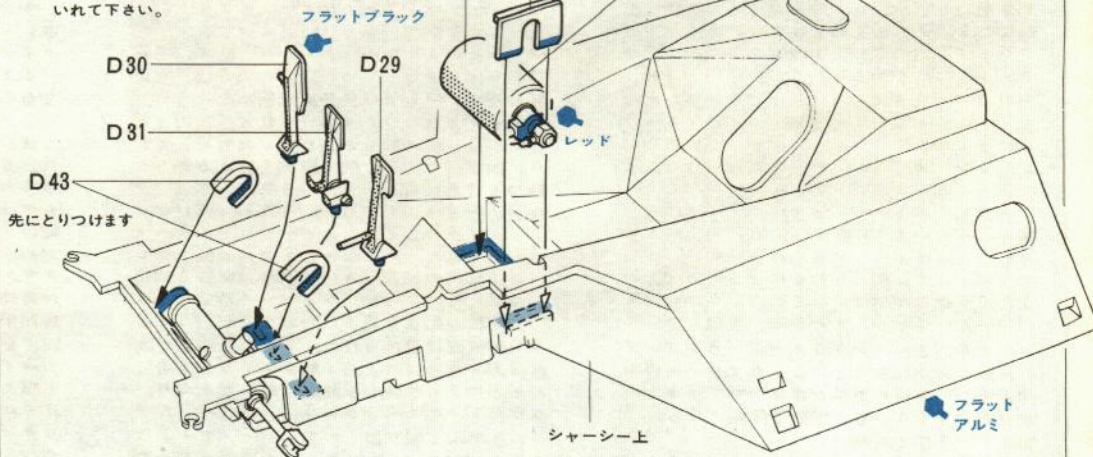
1 ラック&ビニオンのとりつけ

〈ラック&ビニオン〉

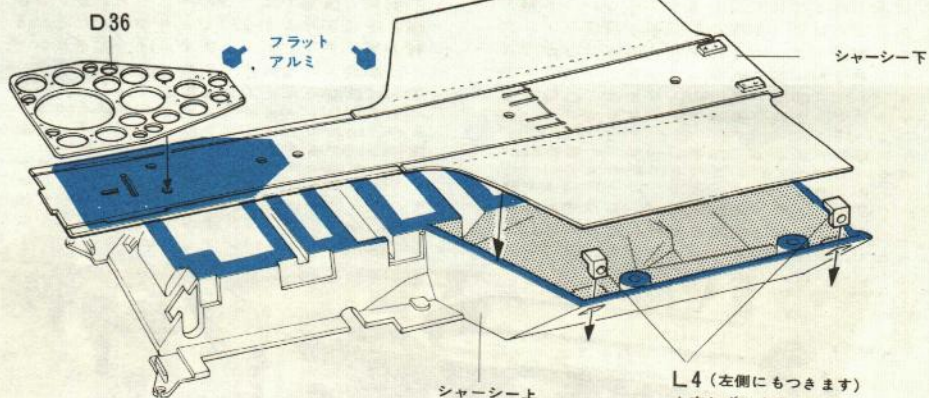


2 ペダルのとりつけ

★ペダルはD30、D31、D29の順で入れて下さい。



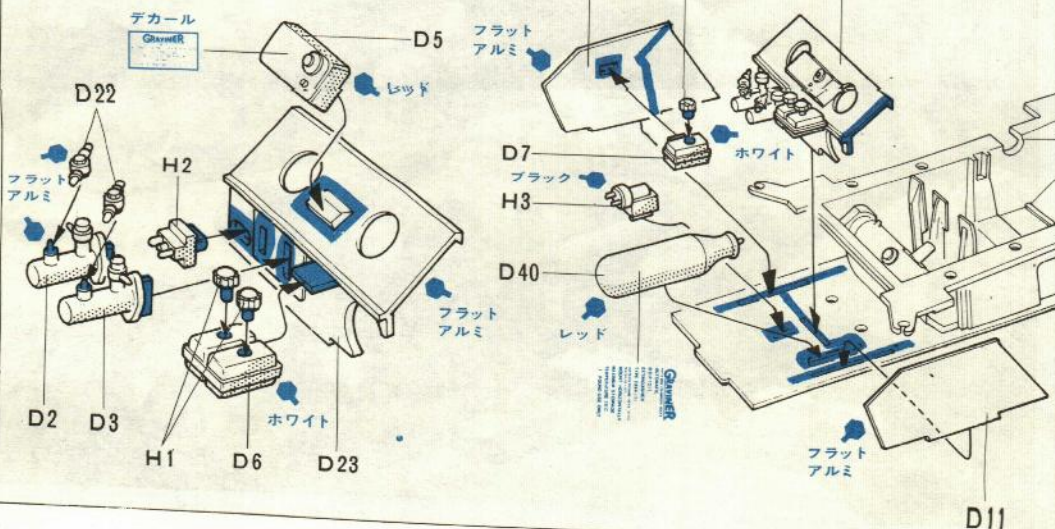
3 シャーシーのくみ込め



L4 (左側にもつきます)
★忘れずに左右に4個入れて下さい。

4 フロントバルクヘッドのとりつけ

〈フロントバルクヘッド〉



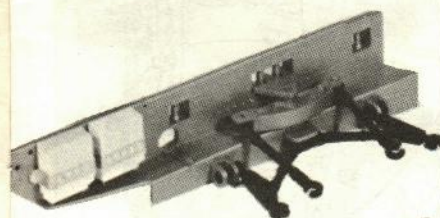
★D40を先にとりつけて下さい。

6 〈フロントサスペンションプレート のくみため〉

ステアリングリンクは動きます、D27、
D9ではさんでとりつけます。

7 〈アップパーアームのとりつけ〉

アップパーアーム K10、K13と、
タイロッド K8は接着しません、図に指
示した場所に強く押し込みます。



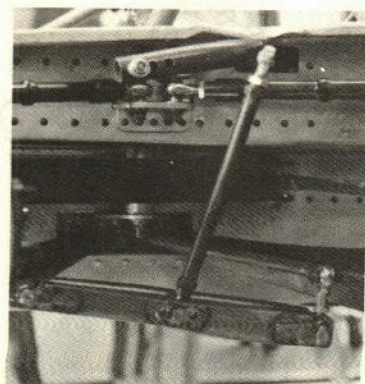
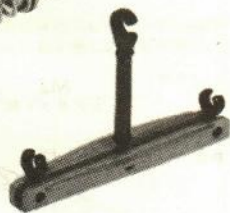
〈弾性を利用したはめこみ〉



★ABS部品、(K部品等)、の連結は
プラスチックの弾性を利用したはめこ
みとなります。このようなはめこみ方
法は後の組み立てでも多く使われます。

9 〈フロントダンパーのくみため〉

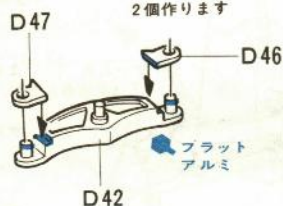
D32、D33を接着しスプリングを
通してK9を強く押し込んで組みたて
ます、又スタビライザーリンクにとり
つけるK11、K12は動くように組み立
て下さい。



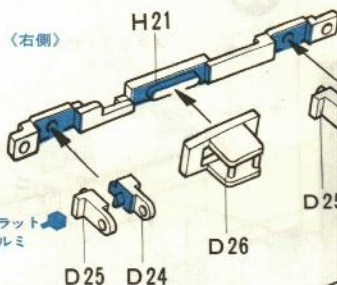
5 サスペンション部品のくみため

〈ステアリングリンク〉

2個作ります

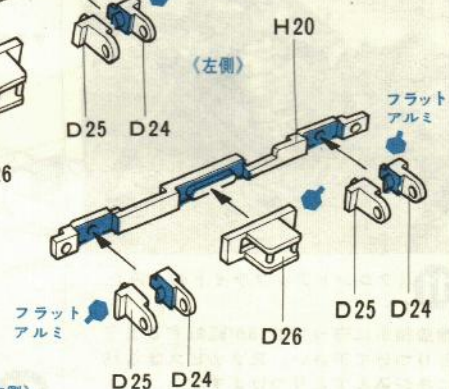


〈右側〉



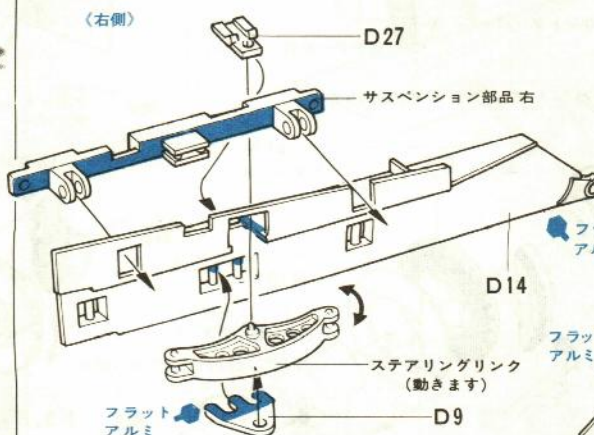
フラットアルミ

〈左側〉



6 サスペンションプレートのくみため

〈右側〉



サスペンション部品 右

フラットアルミ

ステアリングリンク
(動きます)

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

フラットアルミ

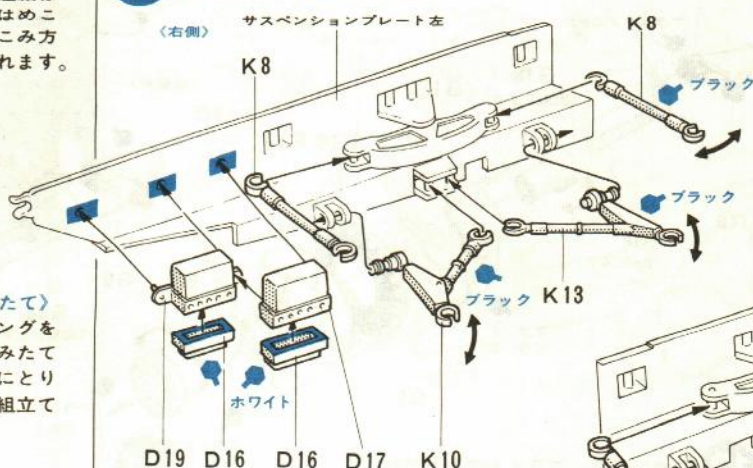
フラットアルミ

フラットアルミ

7 アップパーアームのとりつけ

〈右側〉

サスペンションプレート 左



ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

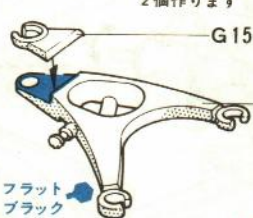
ブラック

ブラック

8 ロアアームのくみため

〈ロアアーム A〉

2個作ります



フラットブラック

フラットブラック

フラットブラック

フラットブラック

フラットブラック

フラットブラック

フラットブラック

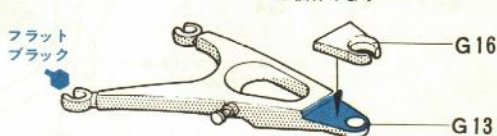
フラットブラック

フラットブラック

フラットブラック

〈ロアアーム B〉

2個作ります



フラットブラック

フラットブラック

フラットブラック

フラットブラック

フラットブラック

フラットブラック

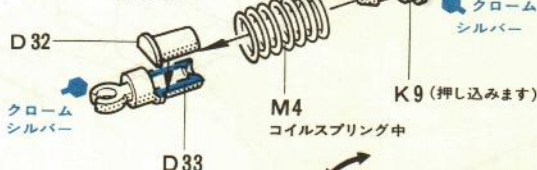
フラットブラック

フラットブラック

9 フロントダンパーのくみため

〈フロントダンパー〉

4個作ります



クロームシルバー

クロームシルバー

クロームシルバー

クロームシルバー

クロームシルバー

クロームシルバー

クロームシルバー

クロームシルバー

クロームシルバー

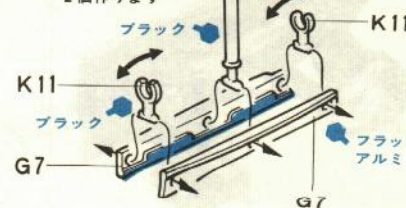
クロームシルバー

クロームシルバー

クロームシルバー

〈スタビライザーリンク〉

2個作ります



ブラック

ブラック

ブラック

ブラック

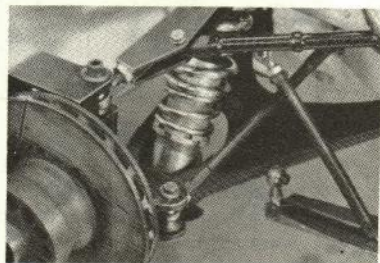
ブラック

ブラック

ブラック

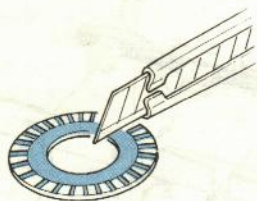
ブラック

10 〈ロアアームのとりつけ〉
各部品は接着せずにはめこみます。

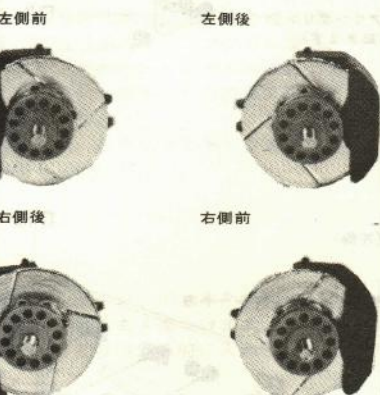


11 〈フロントアップライトのくみため〉
接着指示に守ってG18が回転するようとりつけて下さい。又2φビスはG18にネジ込んでとりつけます。

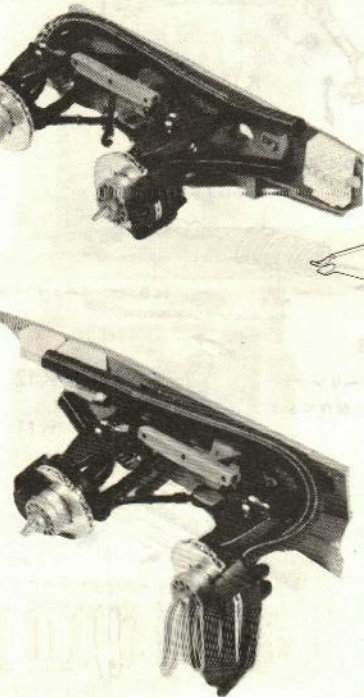
〈接着部のメッキをはがす〉



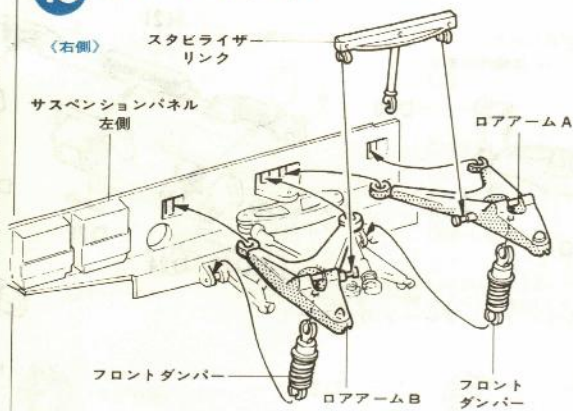
★メッキパーツは接着部のメッキをはがしてから接着します。



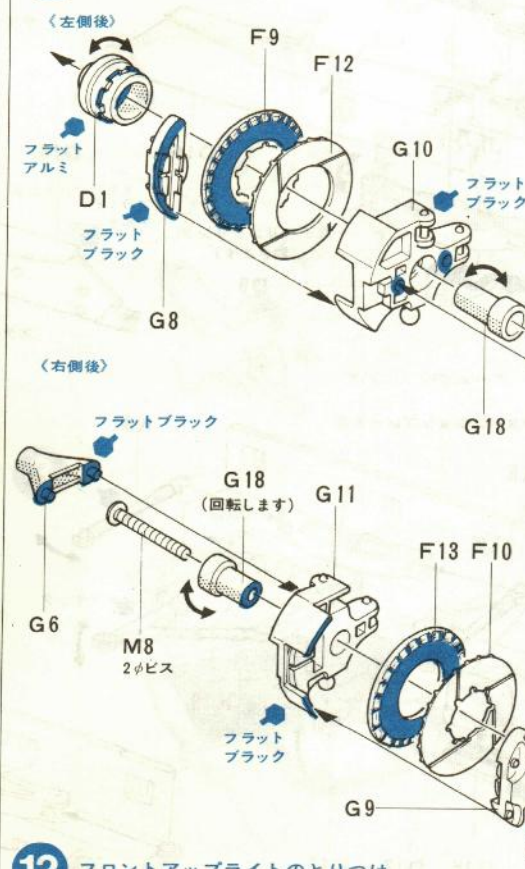
12 〈フロントアップライトのとりつけ〉
フロントアップライトにはエアダクトがつけられます。エアダクトは下の写真のようにとりまわしてとりつけて下さい。



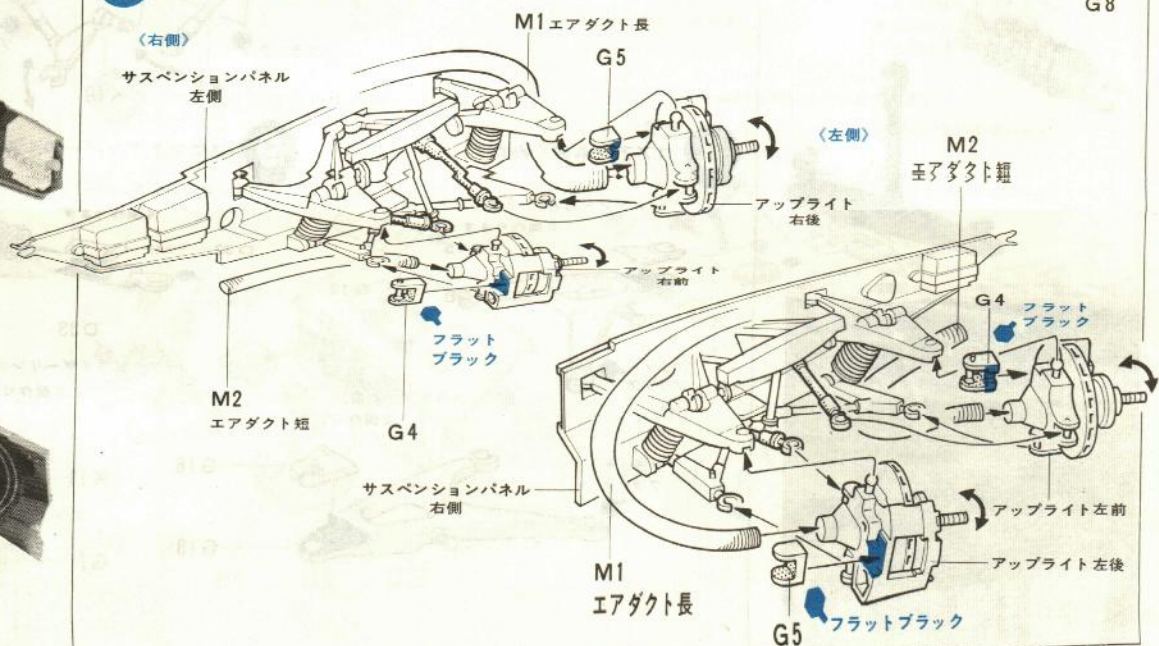
10 ロアアームのとりつけ



11 フロントアップライトのくみため

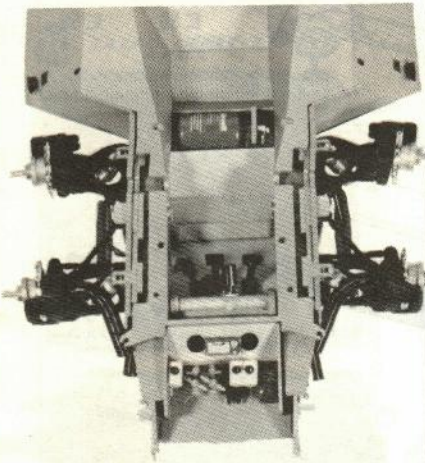


12 フロントアップライトのとりつけ



13 <サスペンションのとりつけ>

サスペンションパネルをとりつけてからK14をはめ込んで下さい。



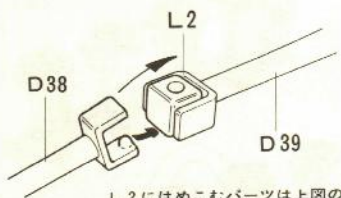
14 <フロントロールバーのとりつけ>

K17にD12を両側から差し込んでシャーシにとりつけます、K17が動くようにして下さい。

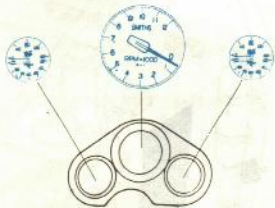


15 <ステアリングロッドのとりつけ>

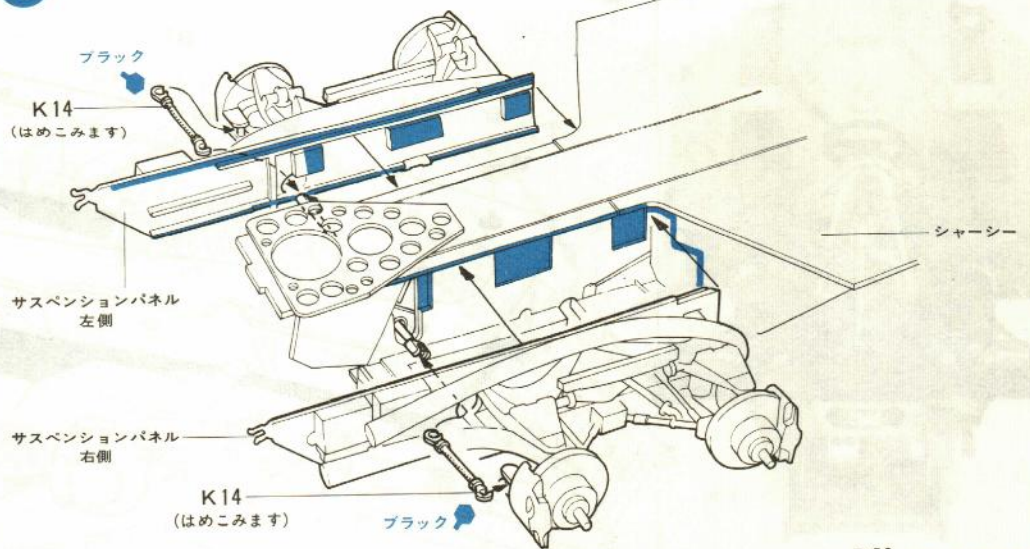
D39とD37は接合しません、D37の穴にD39を通しておきます。



<メーターパネルのマーキング>

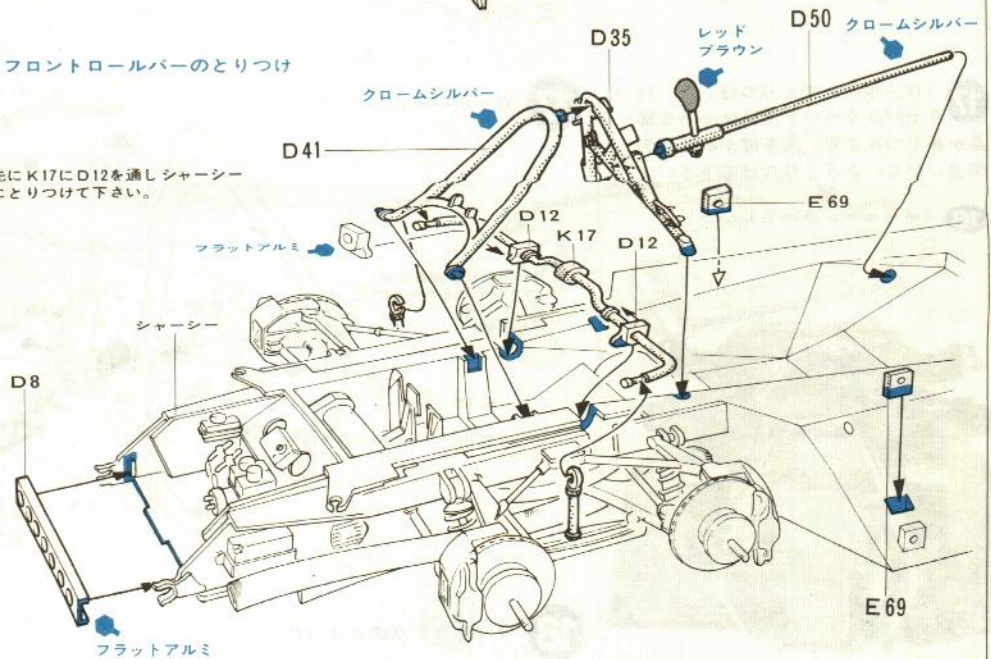


13 サスペンションのとりつけ

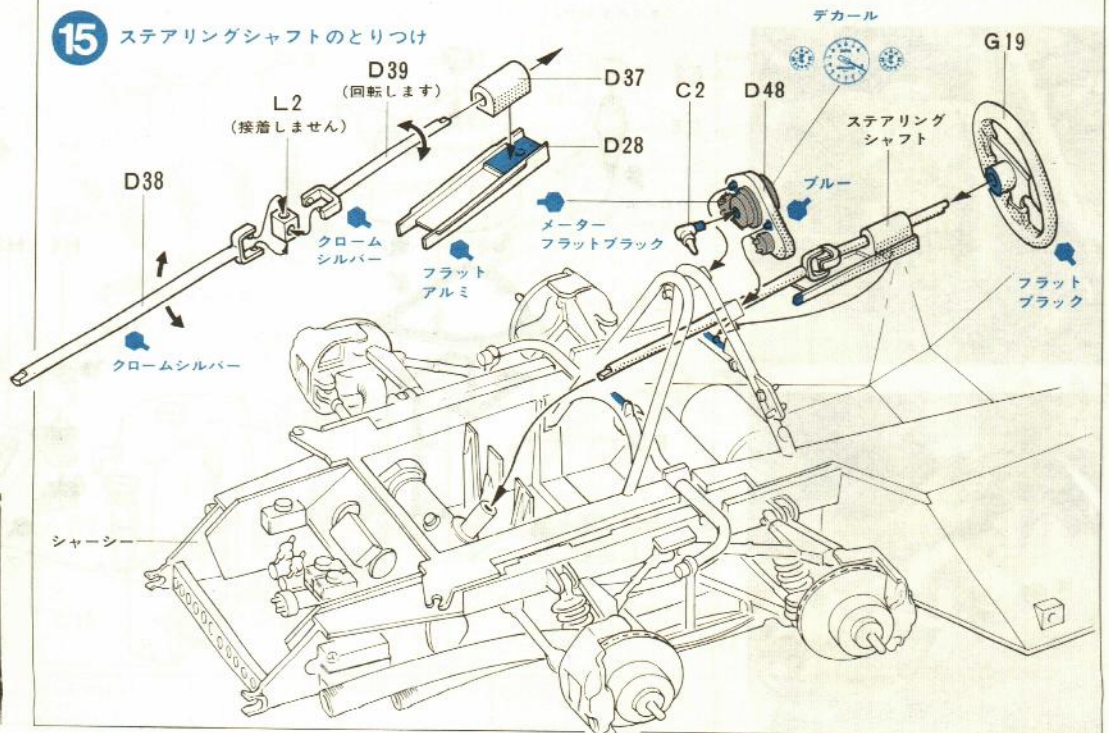


14 フロントロールバーのとりつけ

★先にK17にD12を通しシャーシにとりつけて下さい。



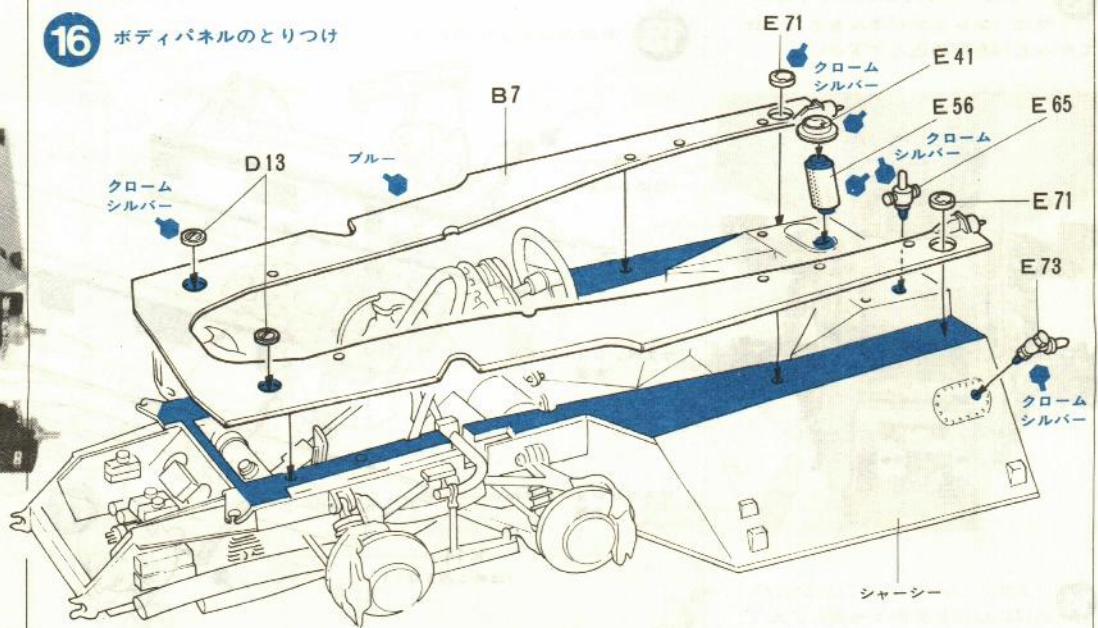
15 ステアリングシャフトのとりつけ



16 〈ボディパネルのとりつけ〉



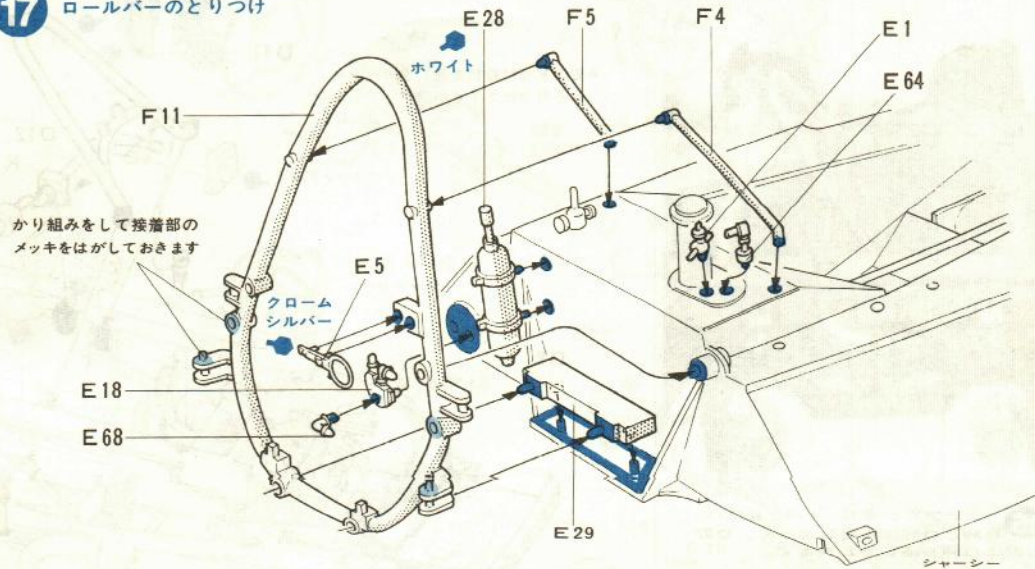
16 ボディパネルのとりつけ



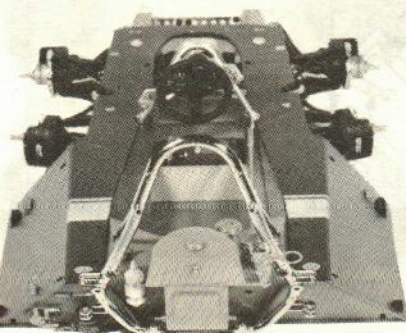
17 〈ロールバーのとりつけ〉

リヤバルクヘッド部には小さな部品が多くなります、図を確かめ部品の間違いがないようとりつけて下さい。

17 ロールバーのとりつけ

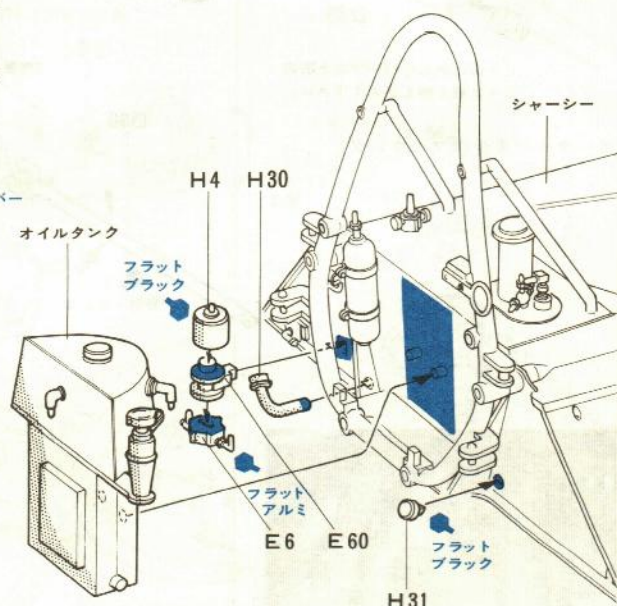
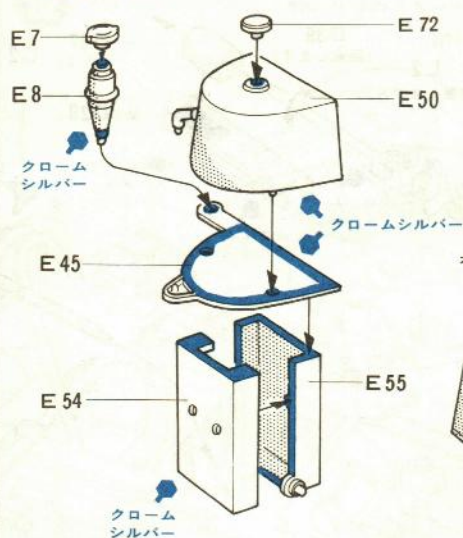


18 〈オイルタンクのとりつけ〉



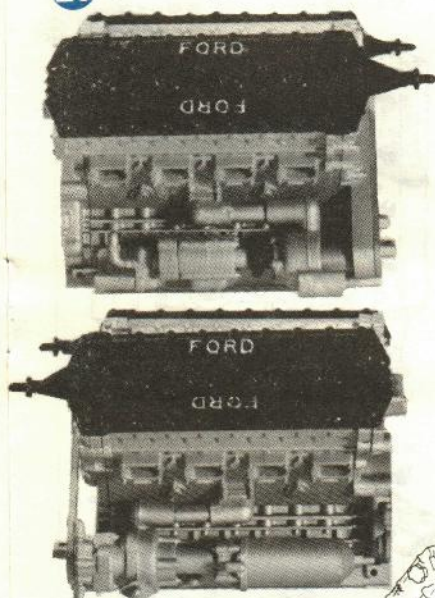
18 オイルタンクのとりつけ

〈オイルタンク〉



- 19** 《エンジンのくみため》
エンジンパネルは左右で形がに
ています、部品を確かめてとりつけて下
さい。

- 20** 《エンジン補器のとりつけ》



- 22** 《インジェクションシステムのく
みため》

H17には黒いビニールコードがとりつ
けられます、14cmのコード4本と4cm
のコード1本をとりつけます、又C3
C4には透明パイプがつけられます。

《左側》



《右側》



《インジェクションシステム》

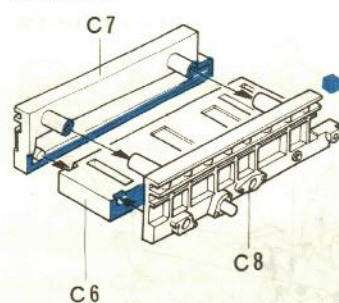
黒コードは左右に4本ずつわけます



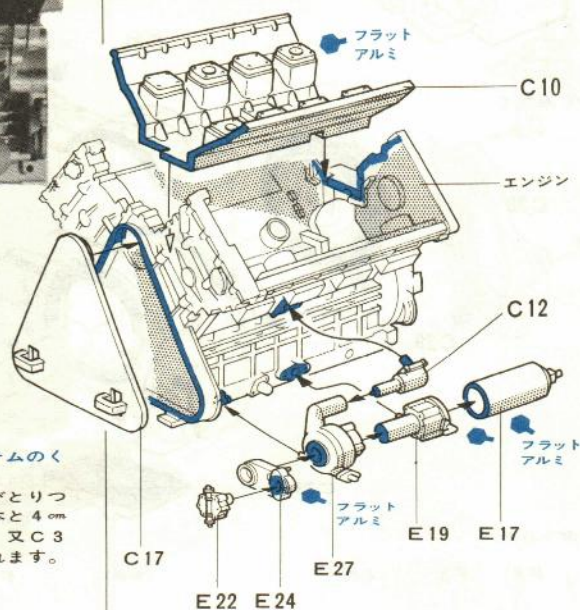
透明パイプは、左右とも
前後に2本ずつわけます

- 19** エンジンのくみため

《オイルパン》



- 20** エンジン補器のとりつけ

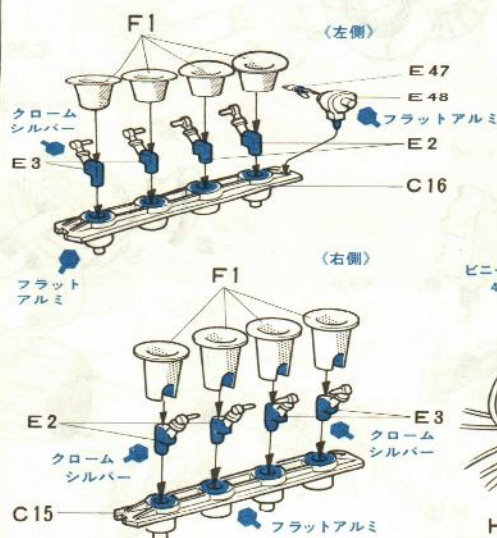


- 21** スロットルプレートのくみため

F1
E1

《左側》
《右側》

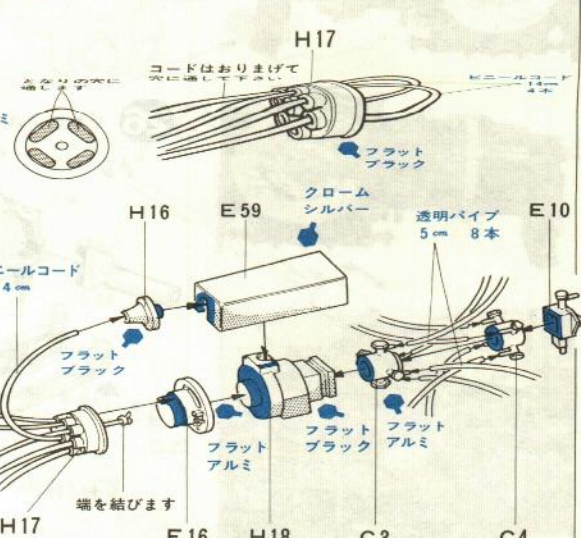
- Σ1** ×ロ>ト>D>D=トD(※)E(



- 22** インジェクションシステムのくみため

H17

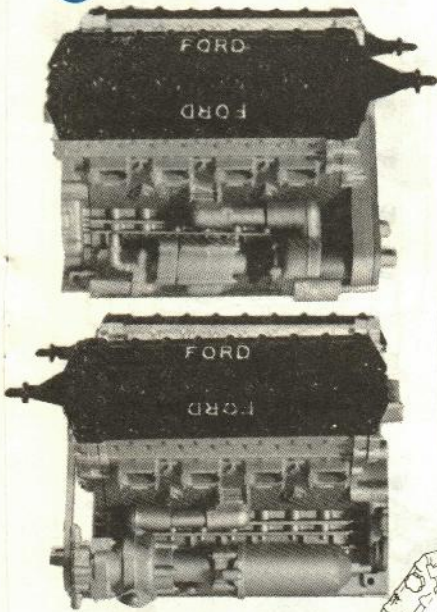
- ΣΣ** +>>E>>D>D>X>X(※)E(



19 《エンジンのくみため》

エンジンパネルは左右で形が違います、部品を確かめてとりつけて下さい。

20 《エンジン補器のとりつけ》



22 《インジェクションシステムのくみため》

H17には黒いビニールコードがとりつけられます、14cmのコード4本と4cmのコード1本をとりつけます、又C3 C4には透明パイプがつけられます。

《左側》



《右側》



《インジェクションシステム》

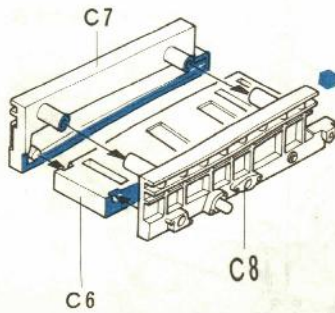
黒コードは左右に4本ずつわけます



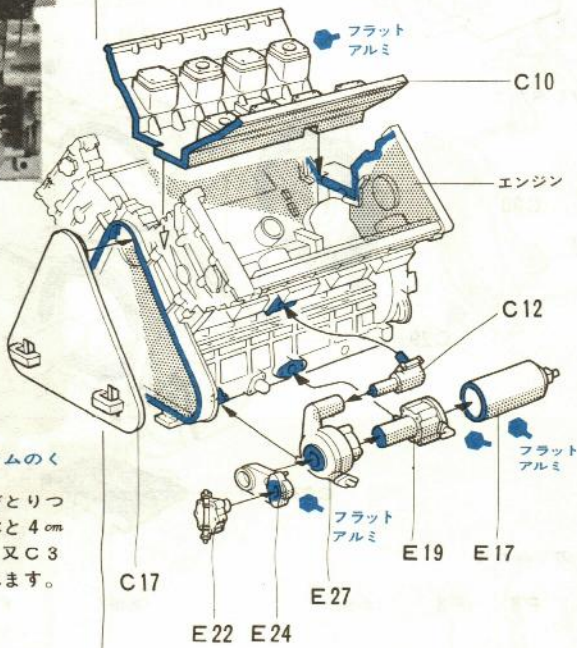
透明パイプは、左右とも前後に2本ずつわけます

19 エンジンのくみため

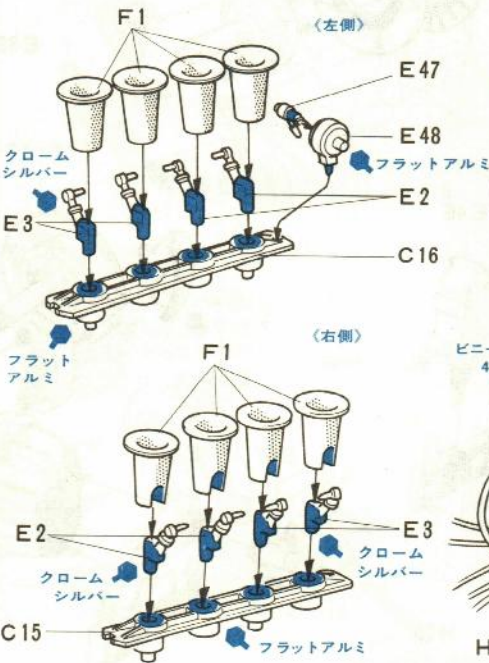
《オイルパン》



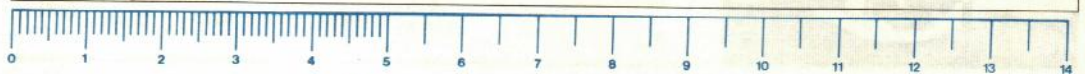
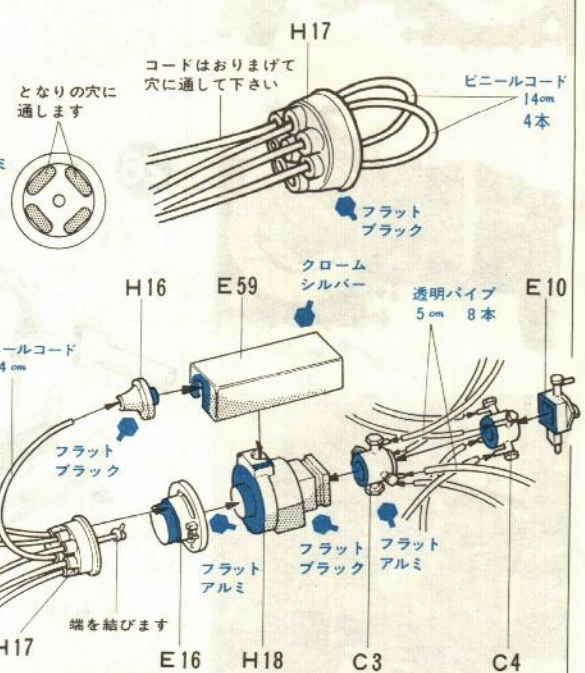
20 エンジン補器のとりつけ



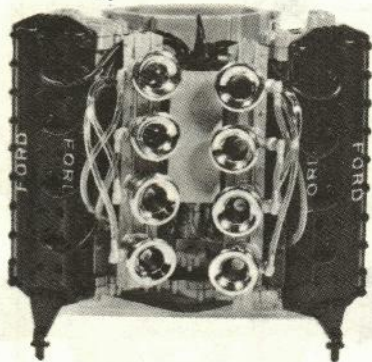
21 スロットルプレートのくみため



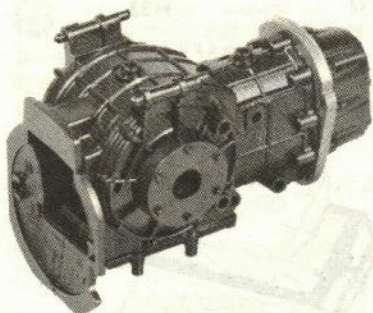
22 インジェクションシステムのくみため



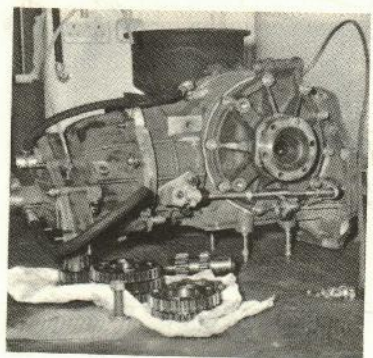
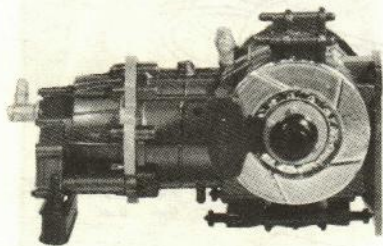
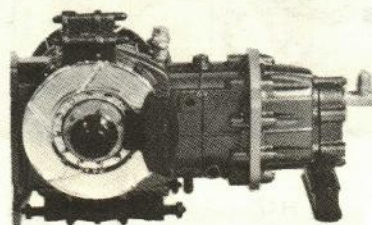
23 〈スロットルプレートのと取り付け〉
透明パイプを図の位置に納めてからスロットルプレート进行着します。
配線は右図を参考に行ってください。



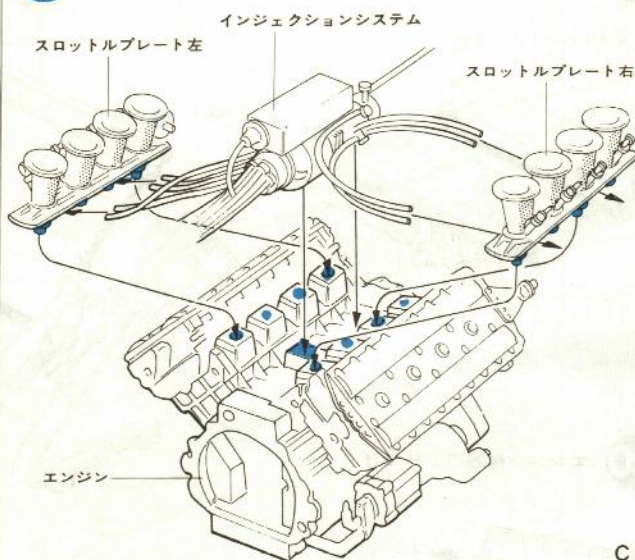
24 〈ミッションのくみため〉
部品 G 43 を忘れずにミッションケースの中に入れてからくみためてください。部品 G 43 は接着しません。



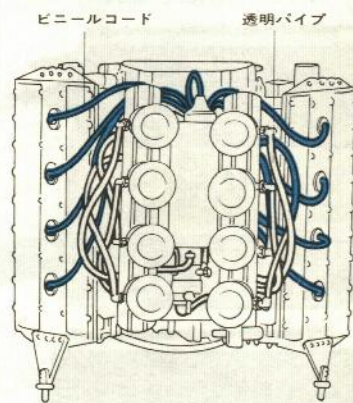
25 〈リヤディスクのくみため〉
ディスク板には回転方向があります、図の模様を見て左右まちがえないようにして下さい。



23 スロットルプレートのと取り付け

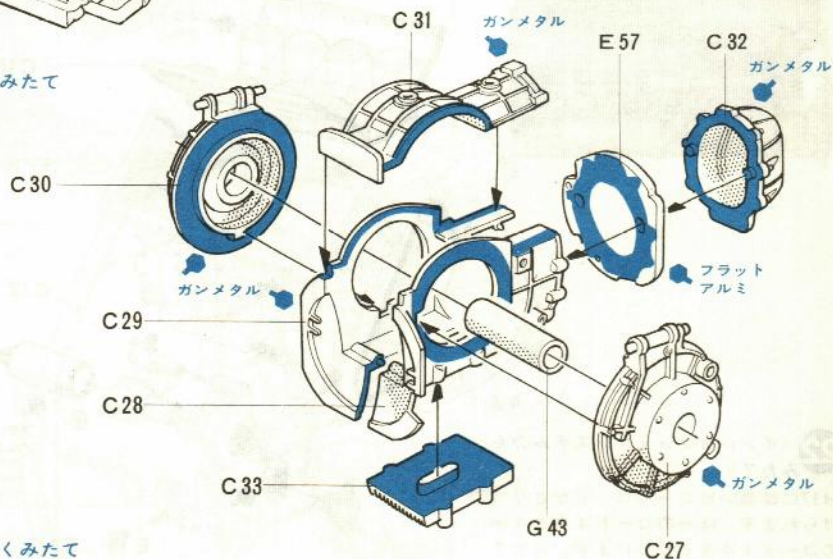


〈イグニッションコードの配線〉

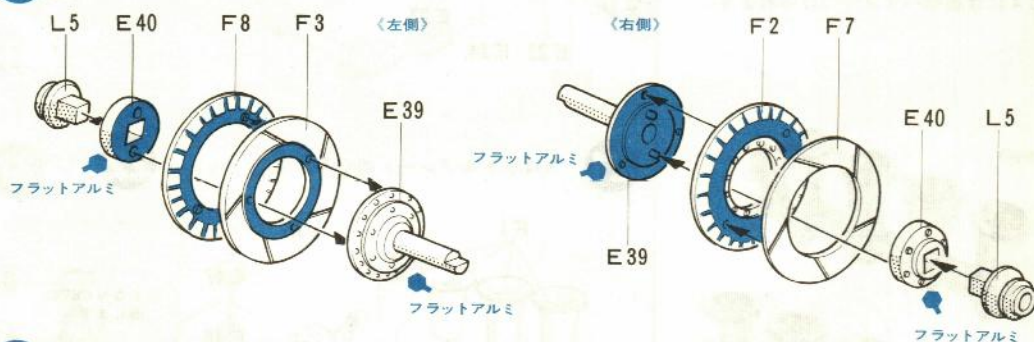


24 ミッションのくみため

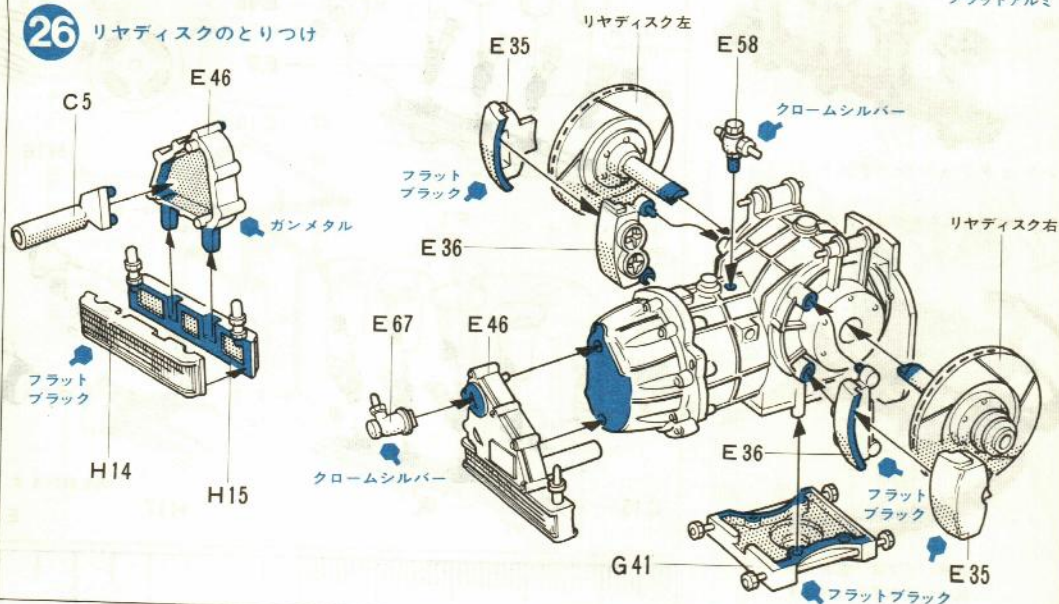
★ G 43 は回転します



25 リヤディスクのくみため

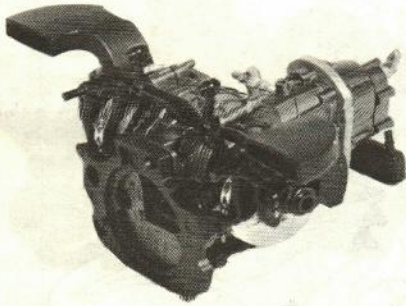


26 リヤディスクのと取り付け



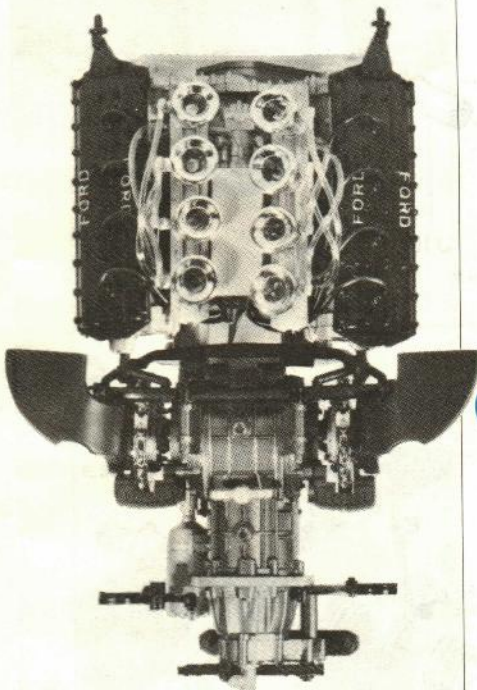
28 《リアサスペンションアームのとりつけ》

エアダクトをとりつけるときディスク板に接着しないで下さい。図の接着指示にしたがってとりつけて下さい。



29 《ミッションのとりつけ》

エンジンとミッションを結合します、接着は図で示した場所にしっかりと接着して下さい。



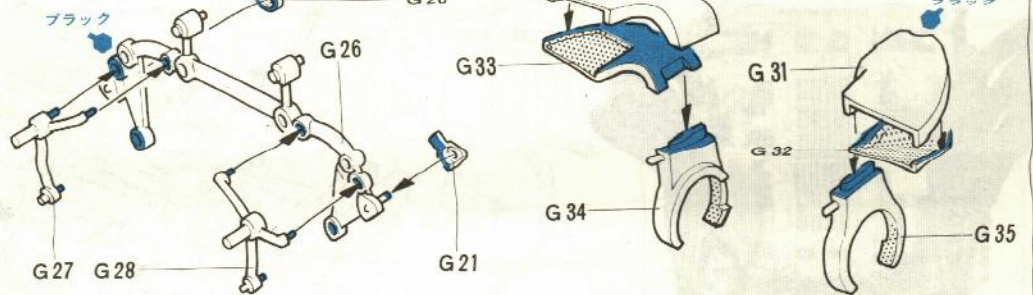
30 《リアアップライトのくみ立て》

44とE12をネジ止めします、ドライバーを使用していっぱいまでネジ込んで下さい。

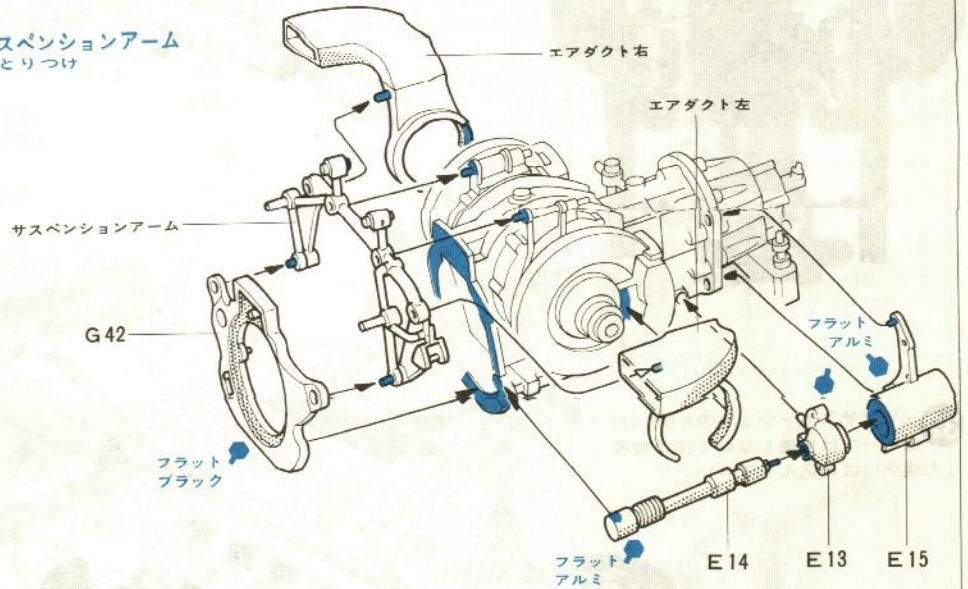


27 サスペンションアームのくみ立て

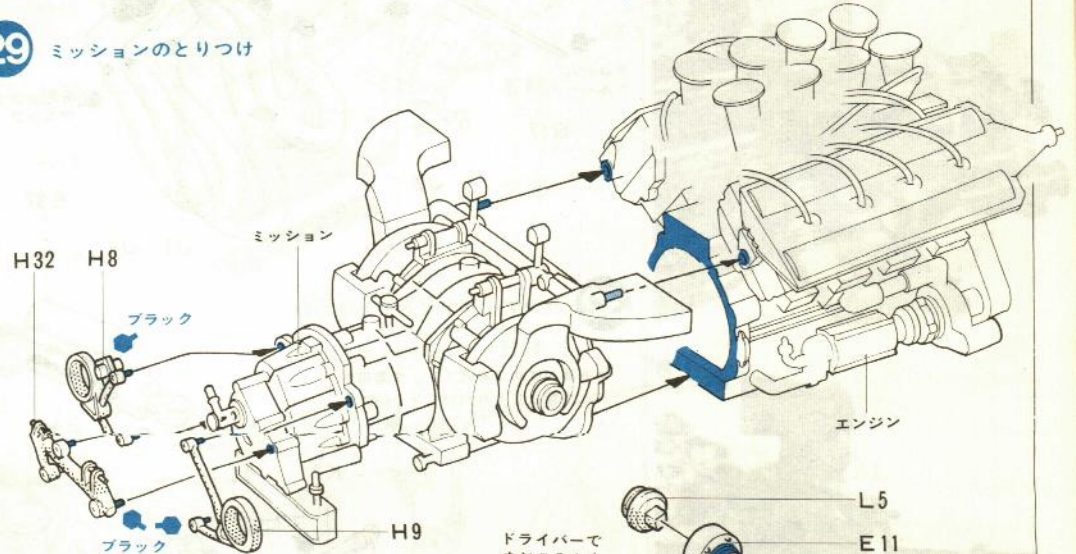
《サスペンションアーム》



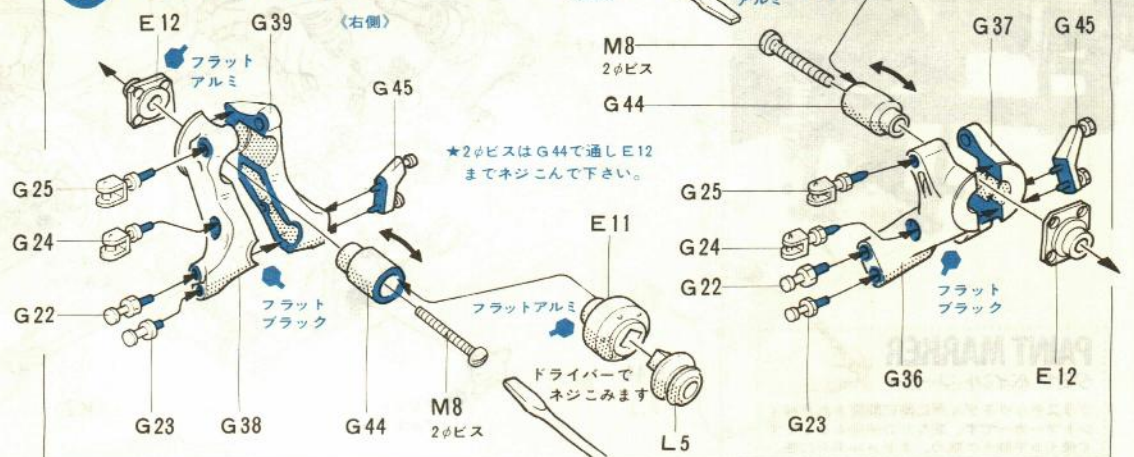
28 サスペンションアームのとりつけ



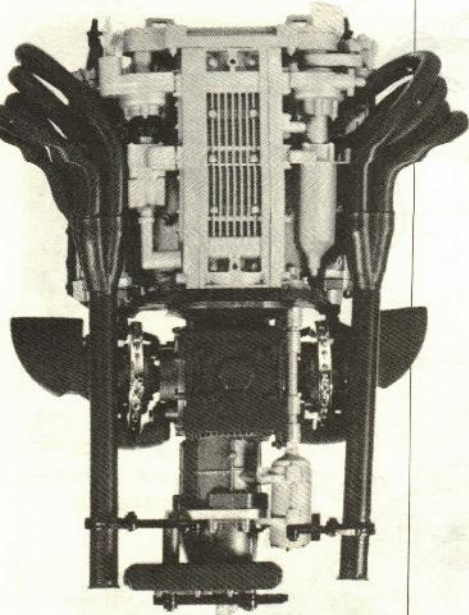
29 ミッションのとりつけ



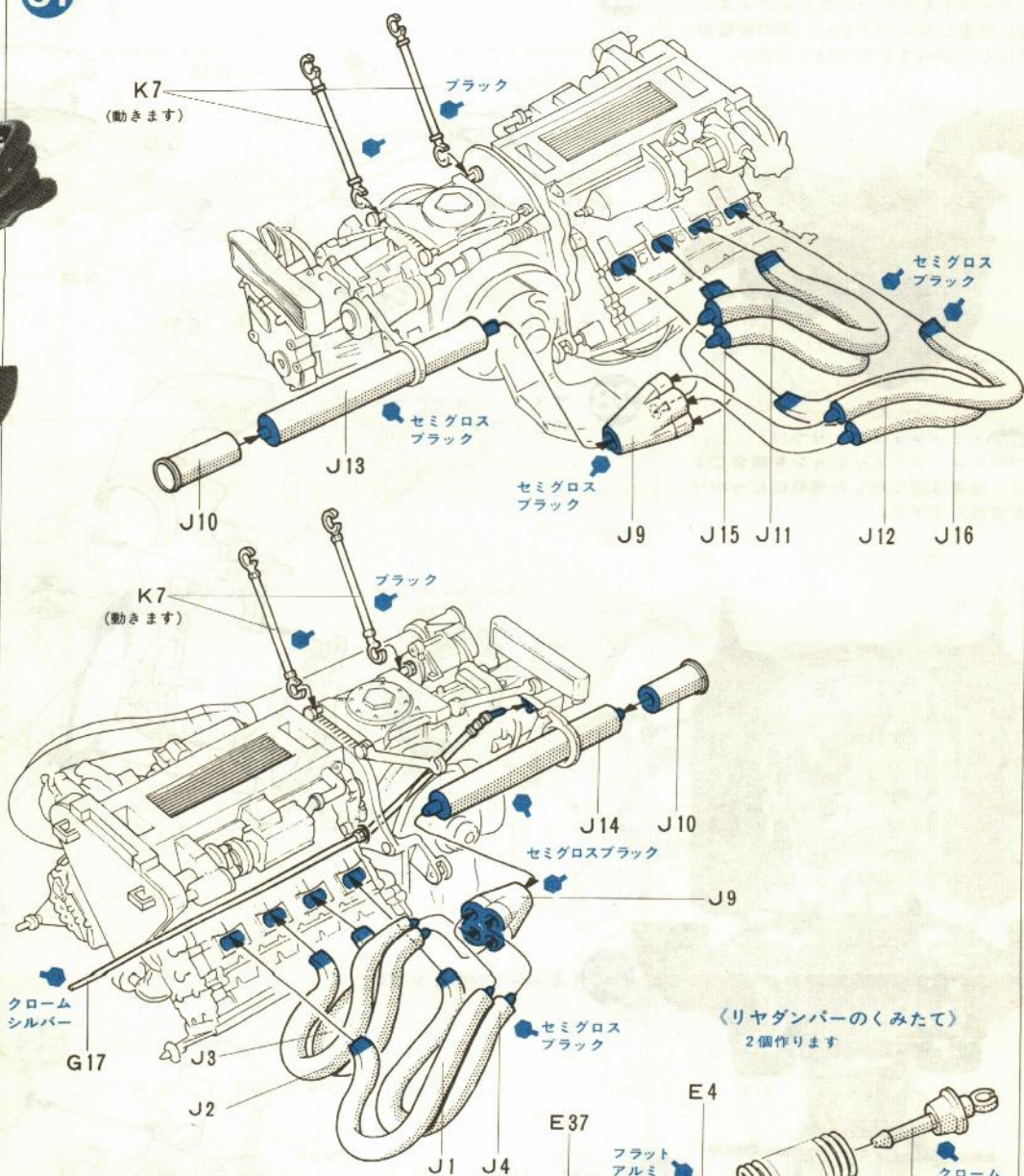
30 リアアップライトのくみ立て



31 〈エキゾーストパイプのとりつけ〉
エキゾーストパイプは番号を確か
めてからエンジンにとりつけて下さい。

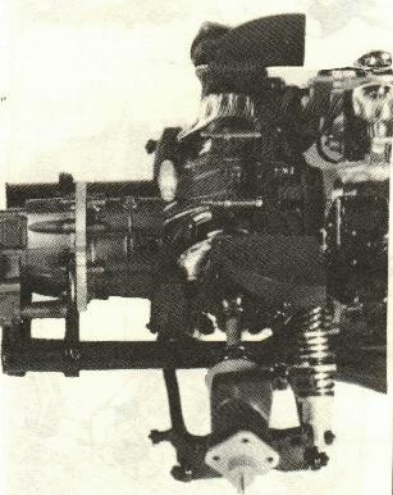
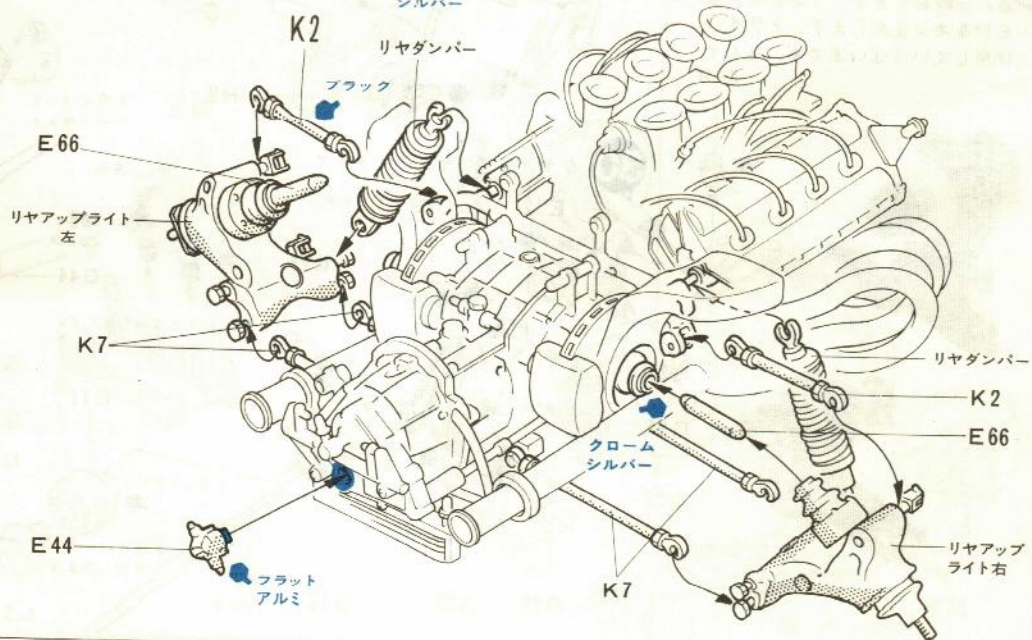


31 エキゾーストパイプのとりつけ



32 リヤアップライトのとりつけ

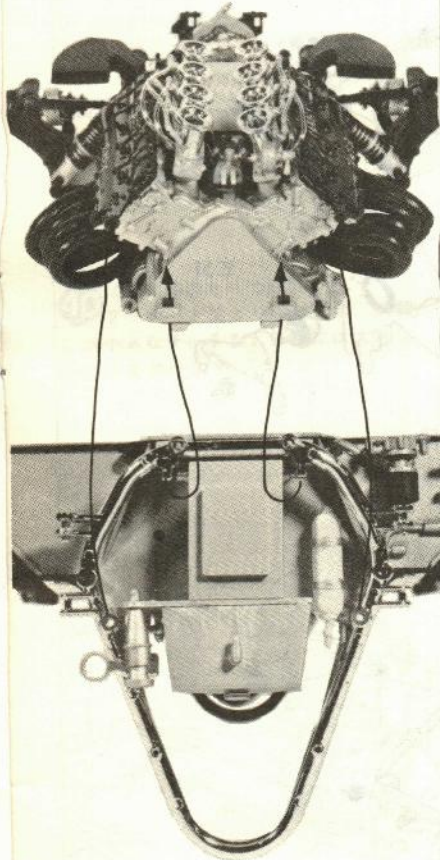
★各部がはめこみ式です、接着指示
に注意してとりつけて下さい。



PAINT MARKER
タミヤ ペイントマーカー
プラスチックモデル用に特に開発されたペ
イントマーカーです。筆などの準備もなしで
と使える手軽さが魅力。エナメル系全12色。

33 〈エンジンのとりつけ〉

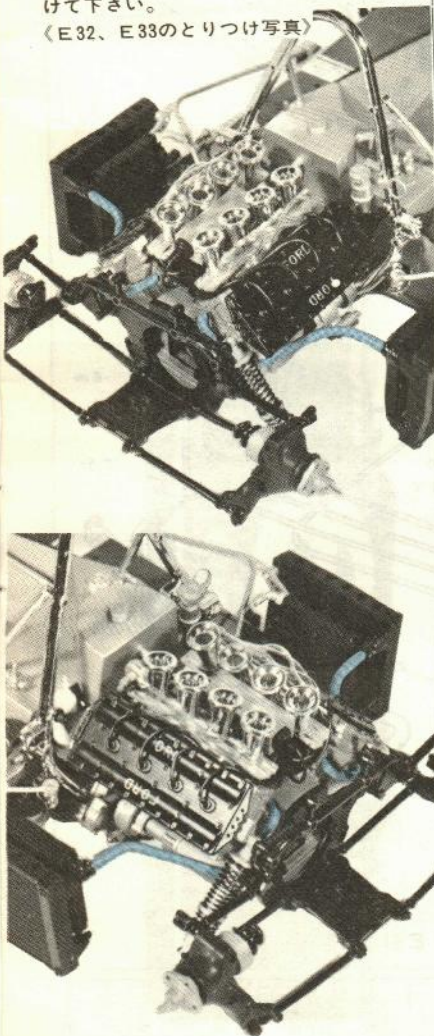
エンジンをシャーシーにとりつけます。ローバーにもうけられた各指示部に接着して下さい。



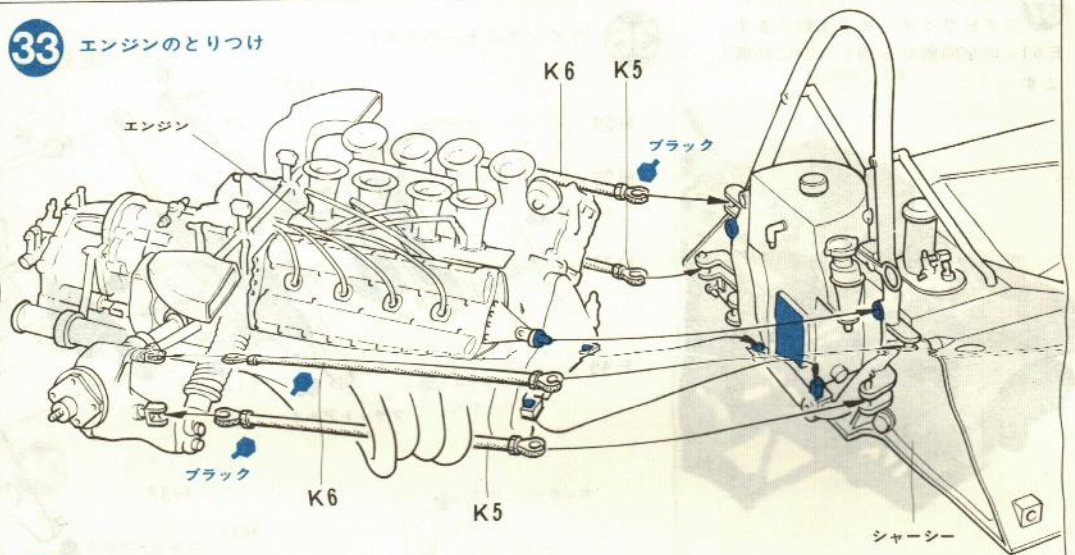
35 〈ラジエターのとりつけ〉

左右のラジエターは取付方法が同じです。左右まちがえないようとりつけて下さい。

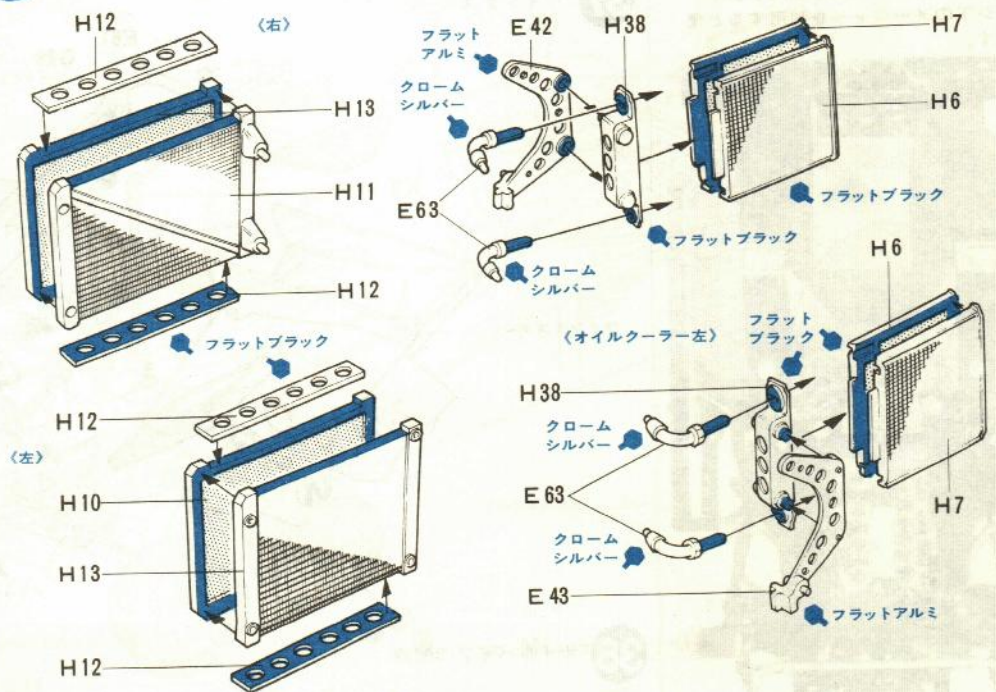
〈E32、E33のとりつけ写真〉



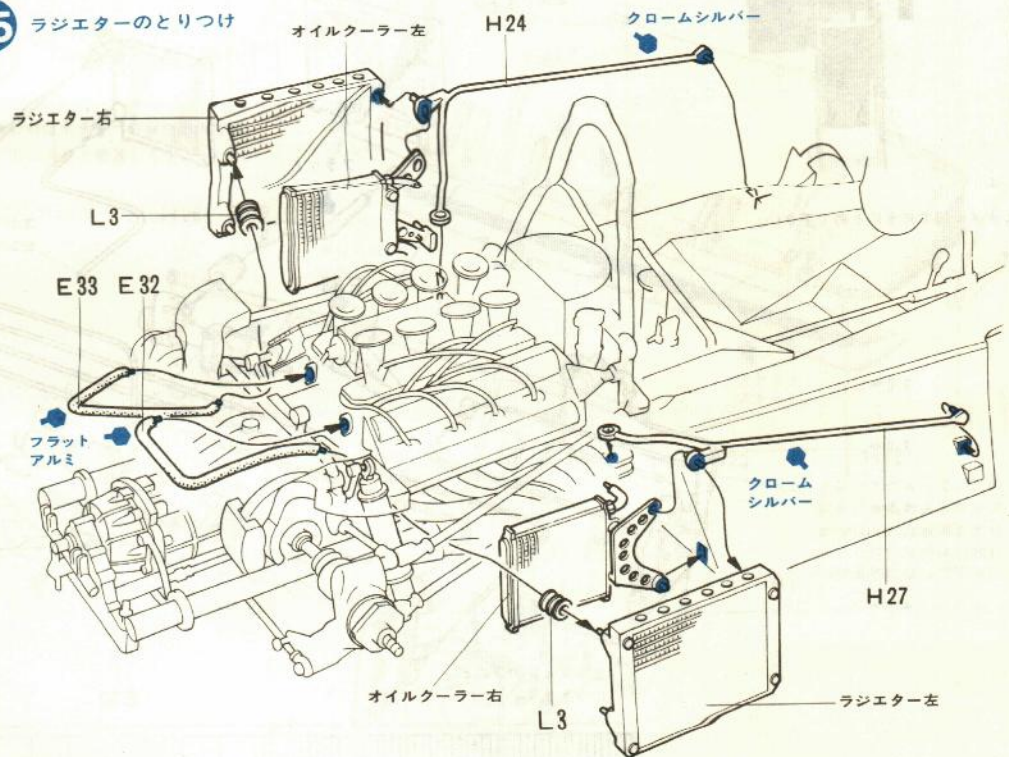
33 エンジンのとりつけ



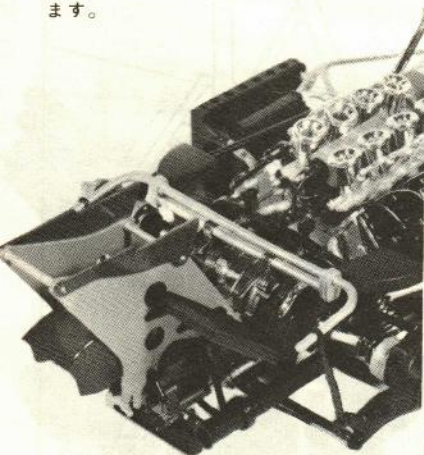
34 ラジエターのくみ立て



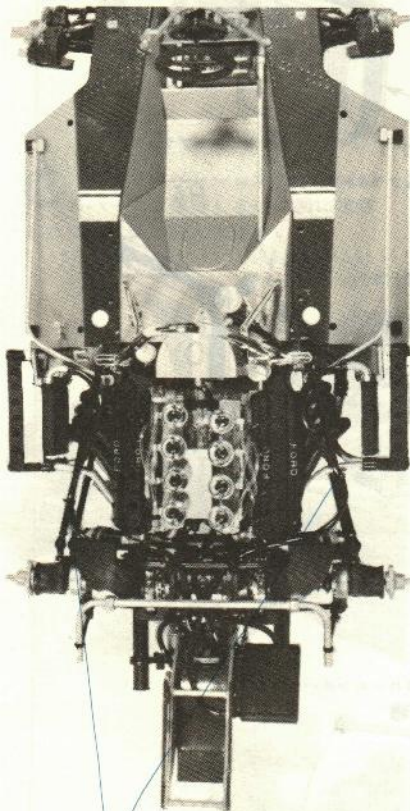
35 ラジエターのとりつけ



37 《ウイングステーのとりつけ》
スタビライザーK1は動きます、
E61、62を両側から通しG24に接着し
ます。

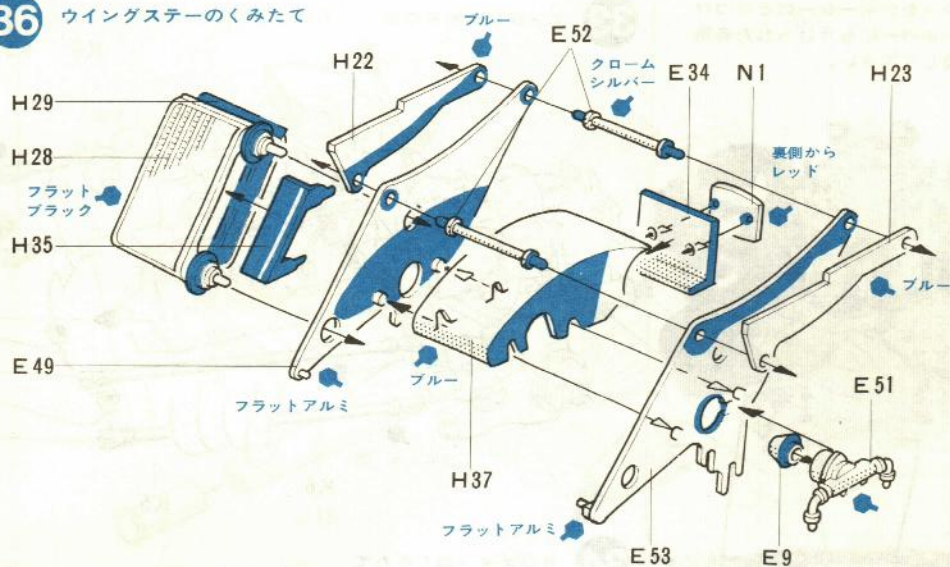


38 《配線》
ビニールコード太を使用します。
ページ下のメジャーを利用すると便
利です。

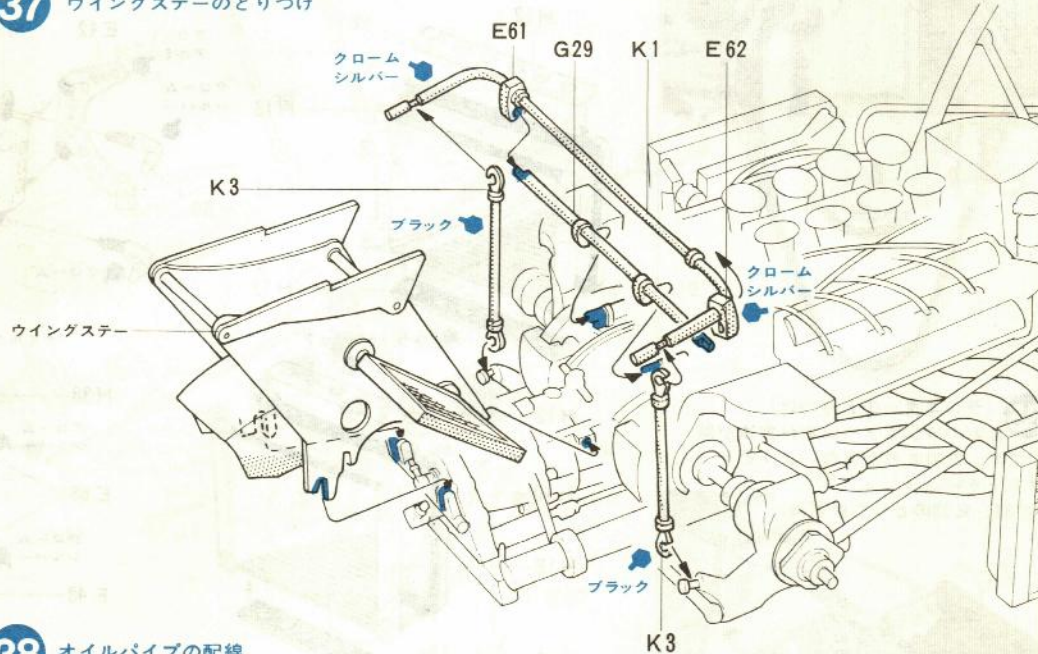


エナメル線でK6にとめて下さい。

36 ウイングステーのくみため

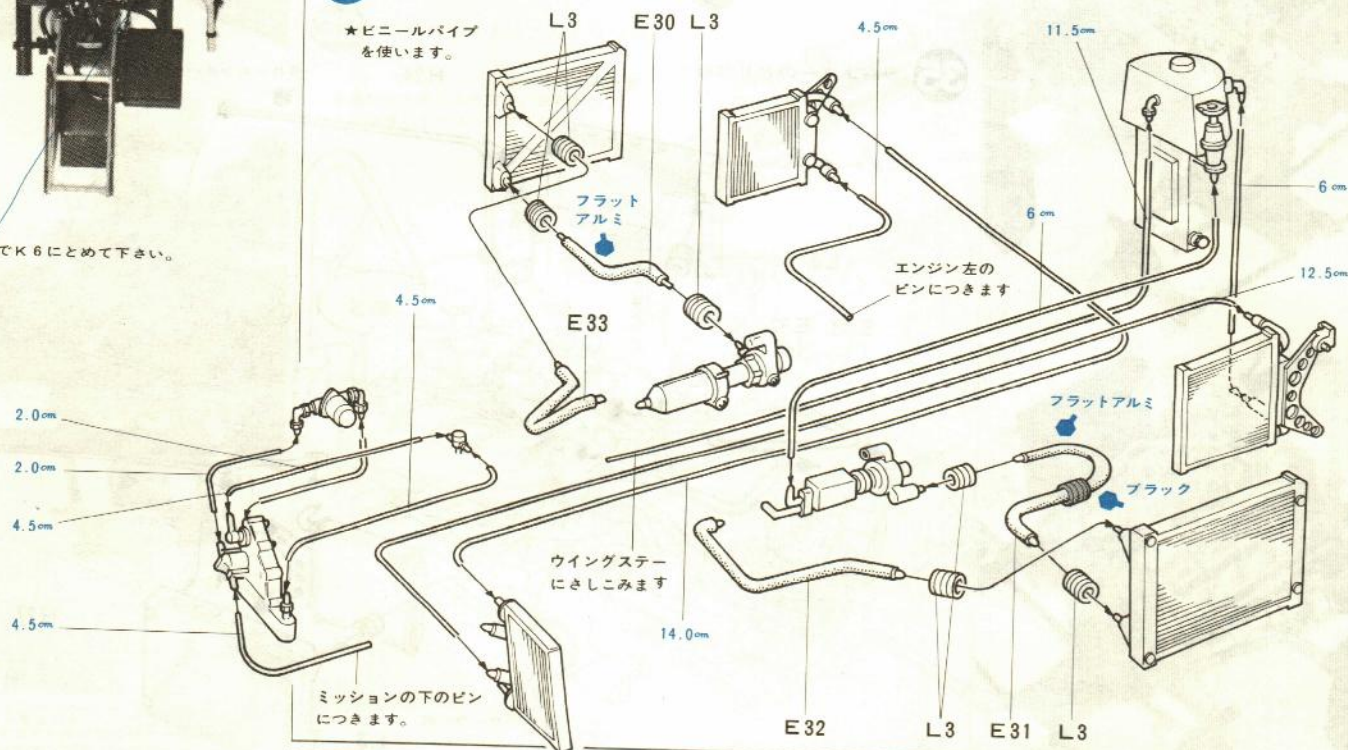


37 ウイングステーのとりつけ



38 オイルパイプの配線

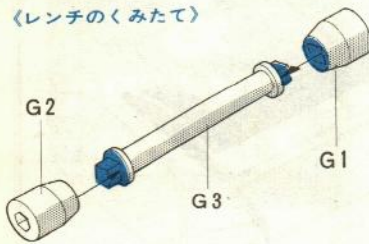
★ビニールパイプ
を使います。



39 〈ホイールのくみため〉

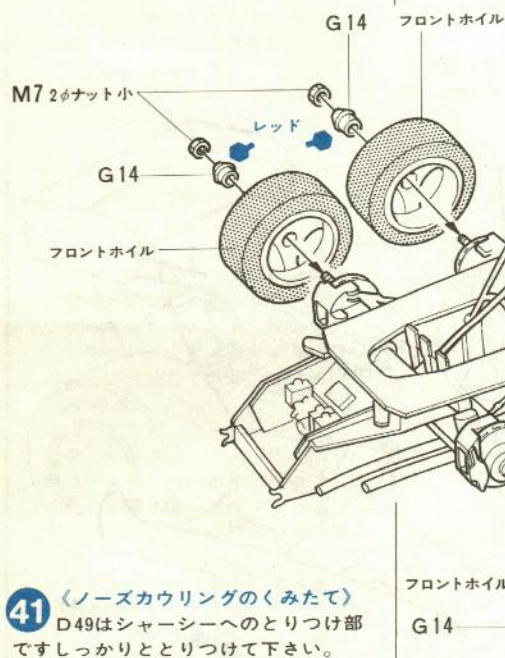
ホイールの接着がかわいてからタイヤをはめて下さい。前4個、後2個を作ります。

〈レンチのくみため〉



40 〈ホイールのとりつけ〉

2φナットでとりつけます、前輪には小さなナットを、後輪には大きなナットを使います。



41 〈ノーズカウリングのくみため〉

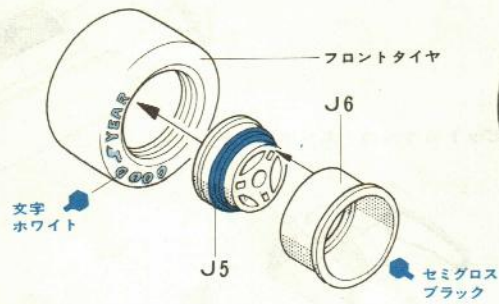
D49はシャーシへのとりつけ部ですしっかりととりつけて下さい。



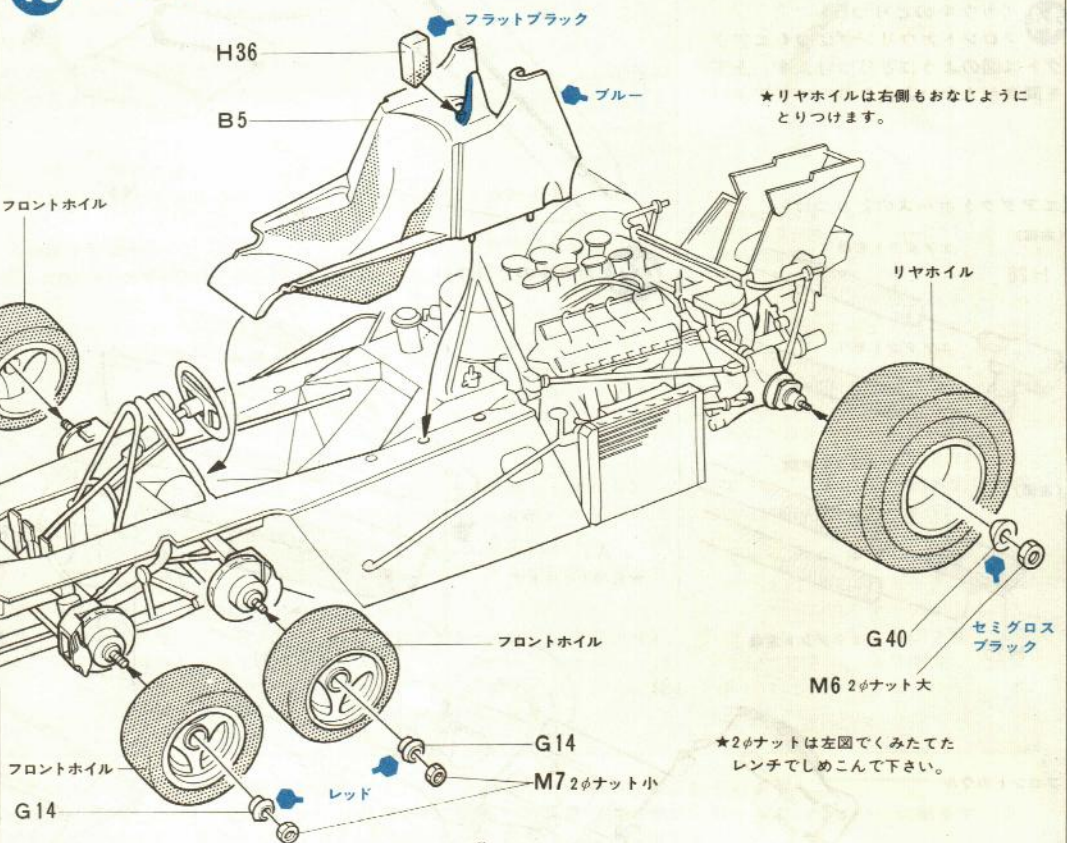
39 ホイールのくみため

〈フロントホイール〉

4個つくります

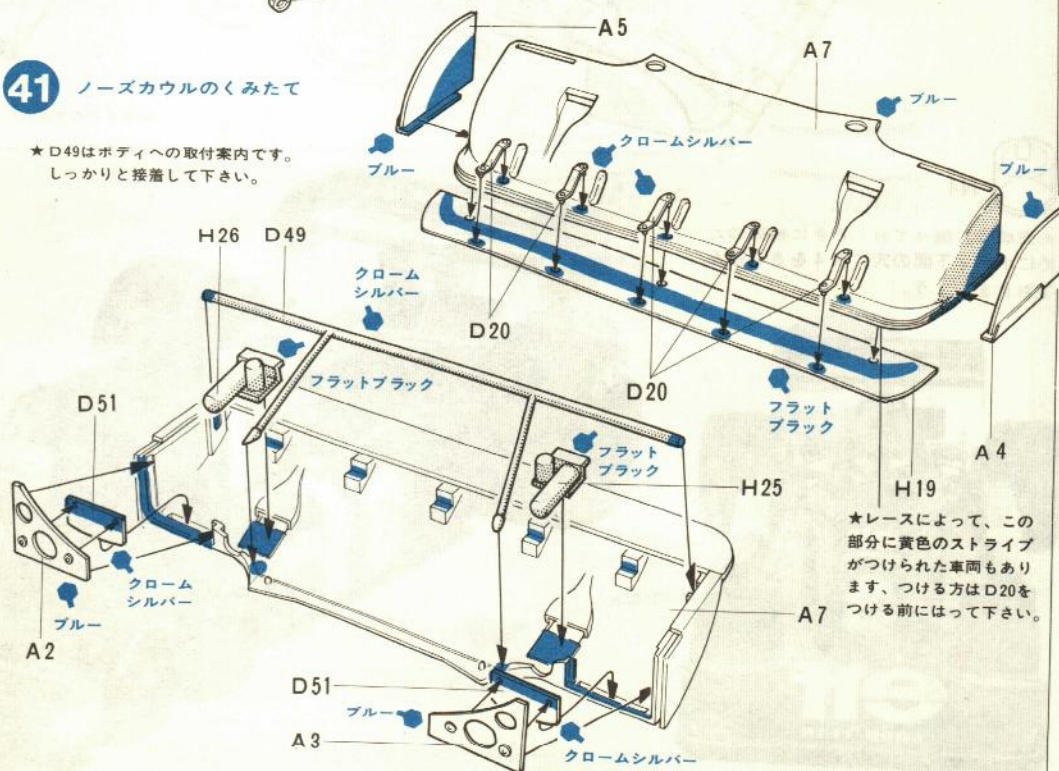


40 ホイールのとりつけ



41 ノーズカウルのくみため

★D49はボディへの取付案内です。しっかりと接着して下さい。



42 <リヤウイングのくみため>

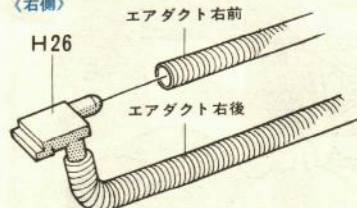


43 <コックピットカウルのくみため>
N2とN3に接着剤をつけすぎると曇ります、注意して接着して下さい。

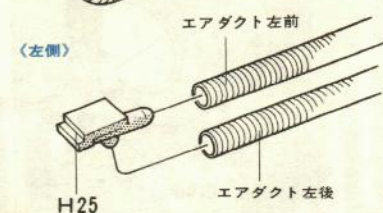
44 <カウルのとりつけ>
フロントカウリングにつくエアダクトは図のようにとりつけます、上下を間違えないうとりつけて下さい。

<エアダクトホースのとりつけ>

<右側>



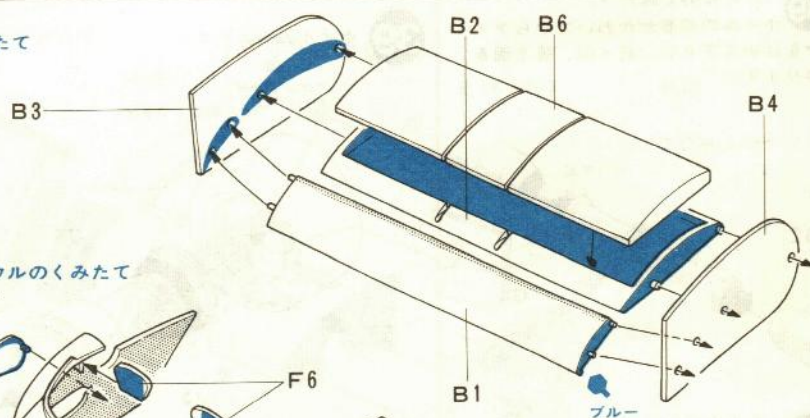
<左側>



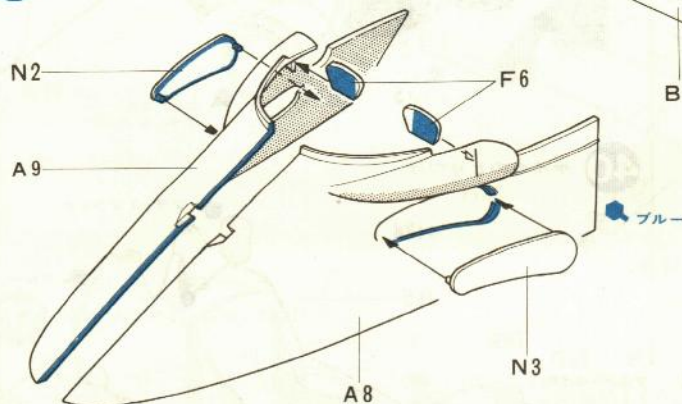
フロントカウル



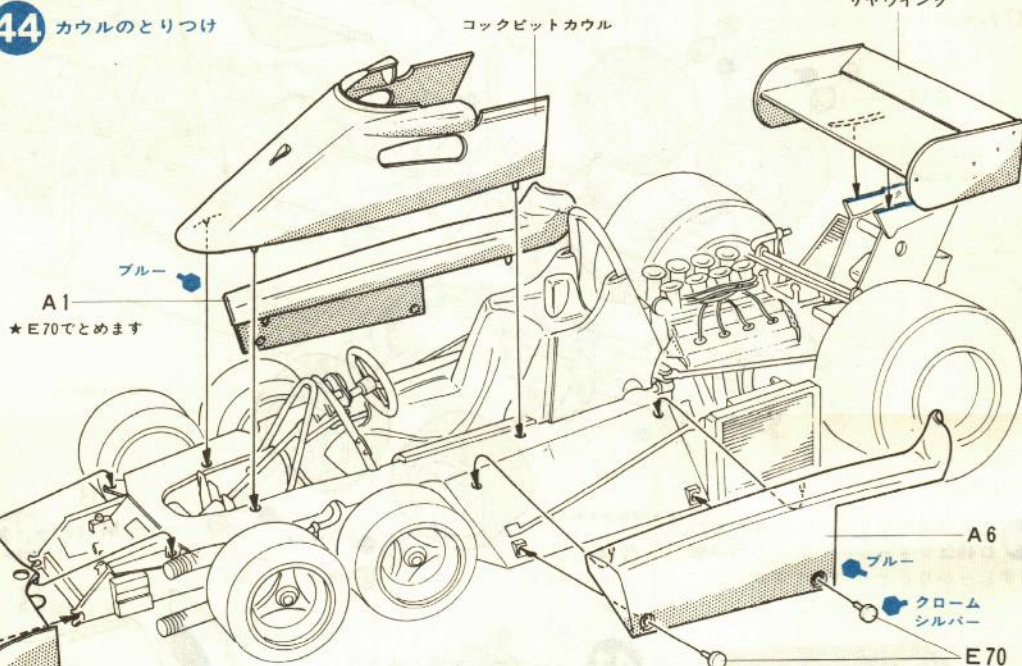
42 ウイングのくみため



43 コックピットカウルのくみため



44 カウルのとりつけ



★サイドカウル A1、A6はE70でとめます。



N4

★完成後、飾っておくときに補強のためにボディ下面の穴にN4をさし込んでおきましょう。



PAINTING & APPLYING DECALS

《塗装》

塗料は各部品の色を変えるために塗るものではありません。各部品を塗装することでその部品の持つ形や働きをひきたせるのです。モデルの重量感を出すために10種類の色を使いわけてみました。各塗装の名前は右の行で指示してあります。

《塗装する前に》

各部品の塗装する面のゴミや手の油、ほこり等をやわらかい布でふき落して下さい。中性洗剤で一度洗っておけば安心です。

接着剤のはみだした所などは塗装ではかくせません。カッターナイフや目の細かいサンドペーパーで直しておくこと。パーティングライン（部品や金具の合せ目）もヤスリをかけて修正して下さい。

部品は組立ててから塗装することがコツです。同じ色の部品は出来るだけ接着して、合せ目を修正してから塗装します。もちろん組立てて筆のとどかなくなる部品はあらかじめ塗装しておいて下さい。

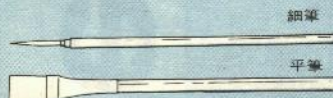
《塗装用具》

筆、ときざら、ウエス(ボロ布)を用意して下さい。

筆はデザイン用の筆を使います。平筆と細筆を使いますが、共に毛質がやわらかく穂先の長い筆が使い良いでしょう。

塗料を溶かすにはセットモノの皿とか部品の入っている透明なフリーバックを使います。画材店で梅皿を買い求めても良いでしょう。

塗装がすんだ後、筆はラッカーシンナーで塗料を落とし水洗してから保存します。



《塗料・溶剤を使用するときの注意》

プラスチックの表面は、塗料が着きにくい性質をもっています。静電気等で付着したホコリや手の油等もよく除いておくことが大切です。

溶剤は少なめに使用するのがコツです。広い面積を筆塗りする時にはたて、よこに平均に塗って下さい。

塗料は火気に十分注意して下さい。

TAMIYA COLOUR タミヤカラー(スプレー式)

美しい塗装が手軽に楽しめるスプレー塗料です。ミクラーモデル用としてカーモデル、一般工作用がそろっています。

《タイヤP34の塗装とマーキング》

エルフ・チームタイヤの6輪車、タイヤP34は、スポンサーであるフランスの石油会社、エルフのチームカラーともいえる濃いブルー1色で塗装されています。

そして、全体をひきしめているのがサイドカウルからコックピットカウリングにかけて描かれたイエローのストライプです。エルフの文字も、ロータスやマクラーレンに書かれたスポンサーのマークのように大きく描かれています。他のマークは、グッドイヤーがタイヤ、チャンピオンがプラグ、コニはショックアブソーバーです。そして、ドライバーの名前の上にはイギリスのチームであることを示す国旗、ユニオンジャックがはられています。イエローで描かれたカーナンバーは、3番がジョディ・シクター、4番がパトリック・デバイユによってドライブされたものです。細部の塗装は組立図中と部品図に示してあります。

《使用する塗料》

タミヤからは手軽に使えるスプレー式のタミヤカラー、筆塗り用エナメル塗料タミヤカラーが発売されています。色の正確なタミヤのカラーをお使い下さい。

スプレー式タミヤカラーより No.15《ブルー》

タイヤの基本塗装です、各カウリングに塗装します、組立ての前に塗装しておくことよいでしょう。

筆塗り用エナメル塗料より、

XF-1《フラットブラック》
つや消しの黒です、ベタルやアップライトに塗ります。

X-18《セミグロスブラック》

オイルやエキゾストパイプに塗ります。ブラックとフラットブラックを1:1に混ぜても作れます。

X-1《ブラック》

つやありの黒です、アップアームやロッド類に塗られています。

X-2《ホワイト》

プレーキオイルタンクやバッテリーに塗ります。

X-7《レッド》

テールランプを裏側から塗ります。消火器もレッドで塗られています。

X-10《ガンメタル》

ミッションに塗ります。放熱塗料の感じを出します。

X-11《クロームシルバー》

オイルタンク等、アルミの部品を塗ります。

XF-16《フラットアルミ》

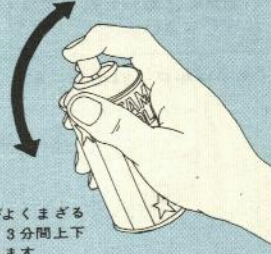
シャーシーの塗装に使います、又エンジン等アルミの鋳物に塗ります。

XF-56《メタリックグレイ》

シルバーやアルミに混ぜ調子を落とすのに使用します。

《エアゾールスプレーの使い方》

新聞紙、ボール箱、部品の入っていたビニール袋、ボロボ、セロテープ等用意して下さい。風の無い日陰で新聞紙を用意してほこりの立たないようにしてから塗装します。スプレー缶を上下によく振って缶の中の塗料をかきまぜてから塗料の混ざり具合を見るためにためし吹きして下さい。ためし吹きは、不用のボール紙やお菓子の箱などを使い、塗装するボディから20cmぐらい放して吹付けます。スプレー缶を同じ方向にすばやく動かして、シュッシュッと吹付けて下さい。塗装するボディより一回り大きなボディを吹付ける気持で塗装するのがコツです。



塗料がよくまざるように3分間上下にふります。

★エアゾールスプレーはカンに印刷された注意をよく読み正しい使いかたをして下さい。火の気のある場所での塗装は絶対にしないで下さい。

タミヤカラーのクリヤーNo.13
ブルーのかわりにNo.13クリヤーを吹きつけても、成形色を生じた美しい仕上がりが楽しめます。

《ドライバー用マークについて》
マーク内には1/12モーターレーシングチーム用のマークが含まれています。使用する方は下図を参考にして下さい。情景作りに、又、F-1カーのアクセサリにご利用下さい。

《ドライバー用マークの位置と塗装》キットにはドライバーの人形は含まれていません。

★スライドマーク内には、タミヤより発売されている1/12情景アクセサリセットのドライバーに貼るマークが含まれています。情景作りに又、F-1カーのアクセサリにご利用下さい。

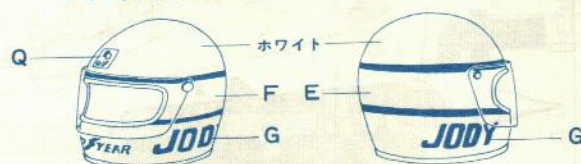
《塗装》



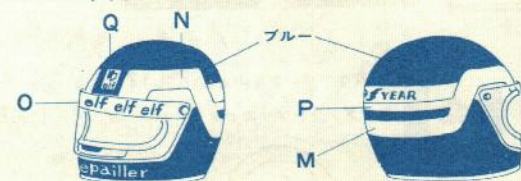
フラット
ブルー
フラット
ホワイト

フラット
ホワイト

ジョディシクター



パトリック・デバイユ



★この2種の他にロニー・ベテルソン用のヘルメットマークが用意されています。



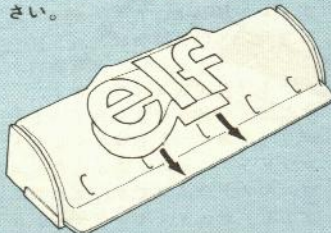
PAINTING & APPLYING DECALS

2-《マークを切りはなす》
はりたいマークをハサミで切りと
ります、必ずニス（透明な）部分
をきれいに切りとります。



3-《マークをぬるま湯にひたす》
ぬるま湯に10秒程ひたしてからひ
きあげタオル等の布の上におさま
す、あまり長くぬるま湯につけて
おくとのりがとけマークがモデル
につきにくくなるので注意して下
さい。

4-《マークをはる》
台紙のはしを手でもち、マークを
スライドさせてモデルに移して下
さい。



5-《正しい位置に移す》
指に少し水をつけてマークをぬら
しながら正しい位置にずらしませ
う。

6-《布で水気をとる》
タオル等の水気をよくすう、やわ
らかい布でマークの内側の気泡を
おし出ししながら、おしつけるよう

にして水分をとります。

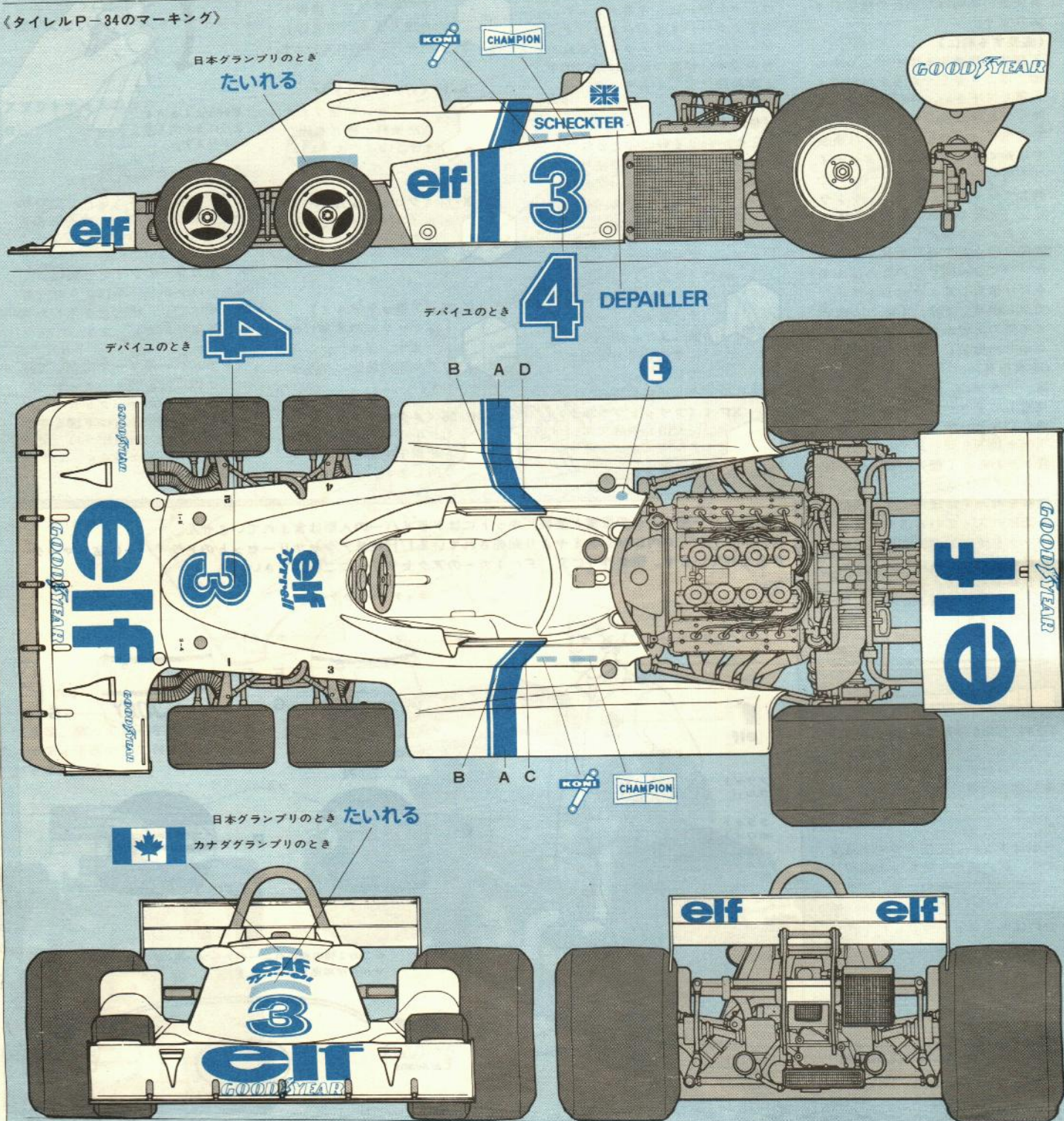
マークをはる場所が曲面や凸凹し
ている時はむしタオルでマークを
おさえて下さい。マークがモデル
の形になじみます。



そのままマークが完全に乾くまで
手をふれないで置いて下さい。
はみだした部分は乾いてからナイ
フで切りとって下さい。

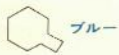
《スライドマークのはりかた》
1-《マークをはる前に》
スライドマークを貼る所のほこり
や油気を、ぬらした布で良くふき
とって下さい。

《タイヤP-34のマーキング》

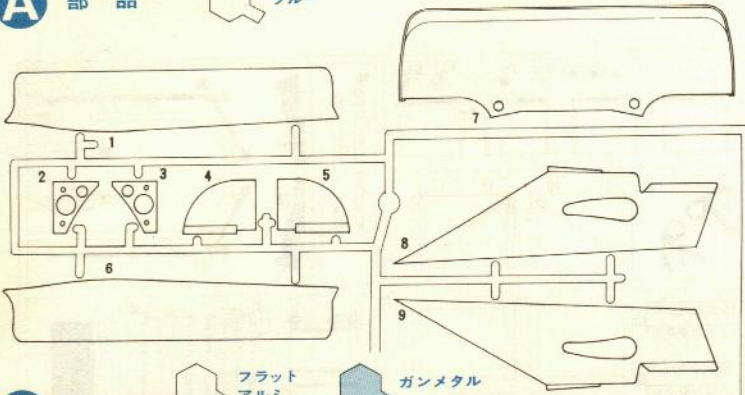


A

部 品



ブルー



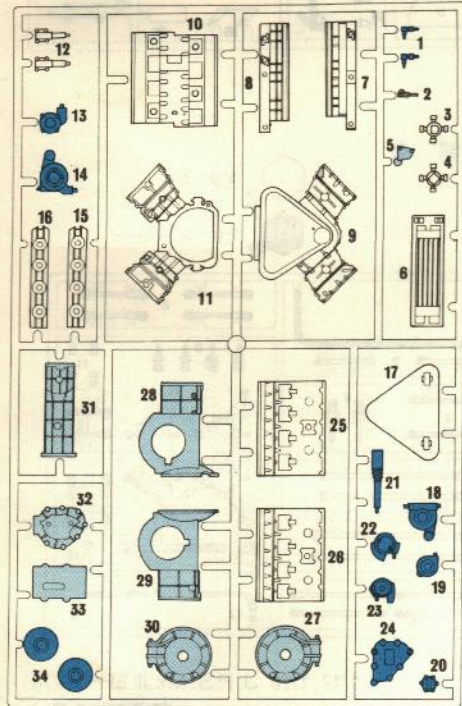
C

部 品



ガンメタル

不要部品



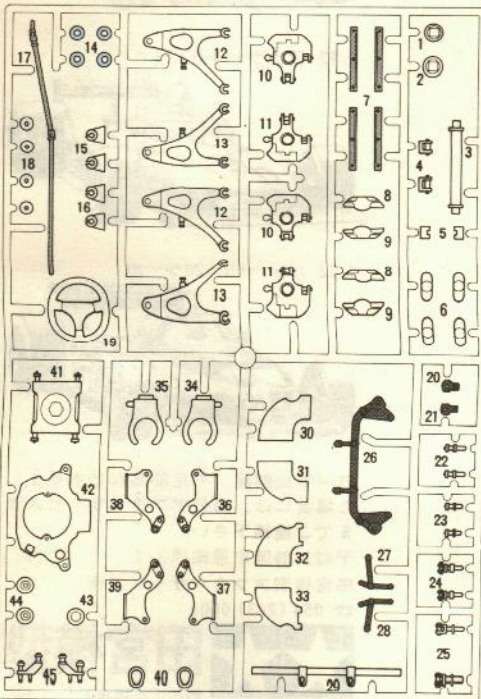
G

部 品



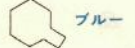
クローム
シルバー

レッド

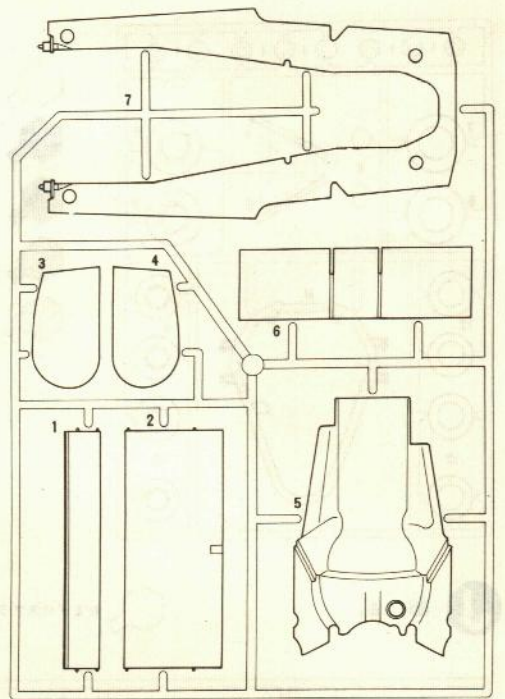


B

部 品



ブルー



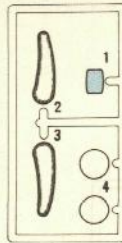
N

部 品



レッド

フラット
ブラック



D

部 品



フラット
アルミ

フラット
ブラック

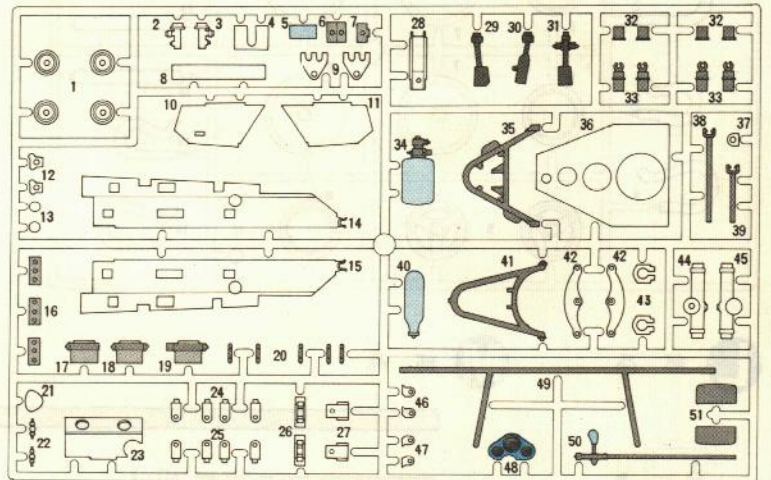
レッド
ブラウン

ホワイト

クローム
シルバー

レッド

ブルー



E

部 品



フラット
アルミ

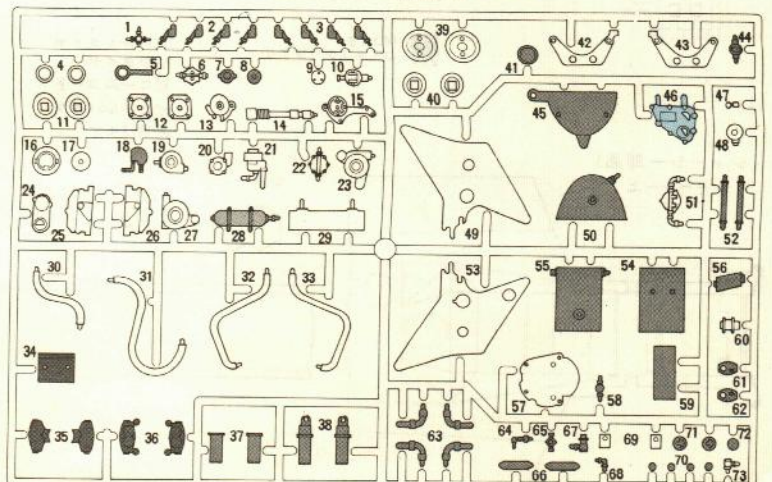
ガンメタル

ホワイト

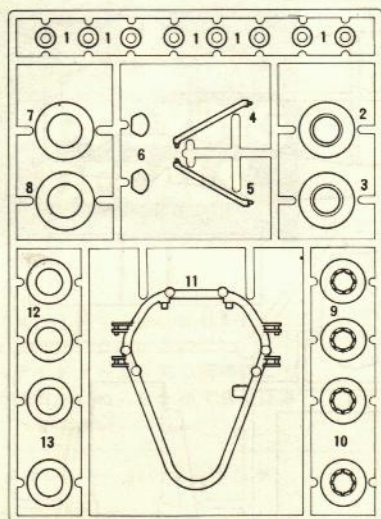
クローム
シルバー

フラット
ブラック

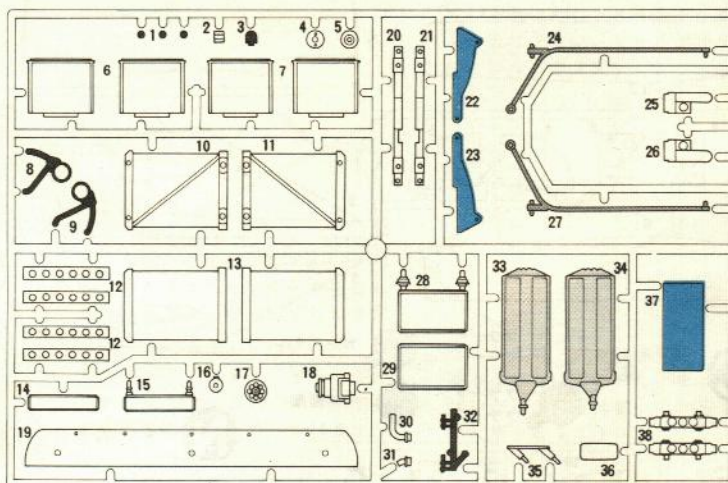
ブルー



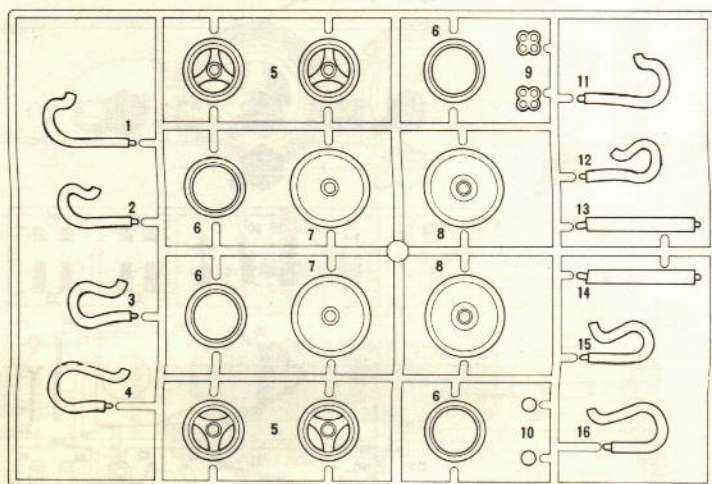
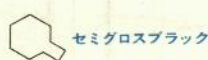
F 部 品



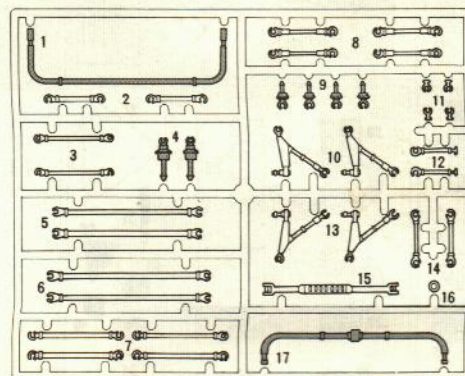
H 部 品



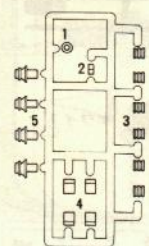
J 部 品



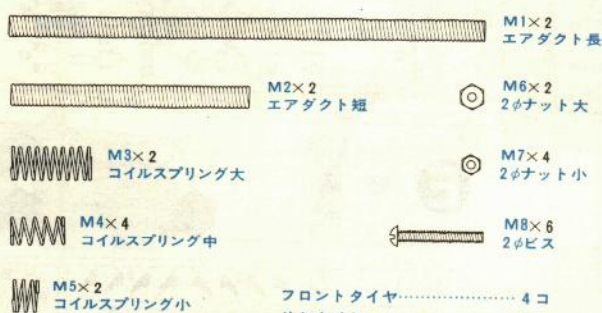
K 部 品



L 部 品

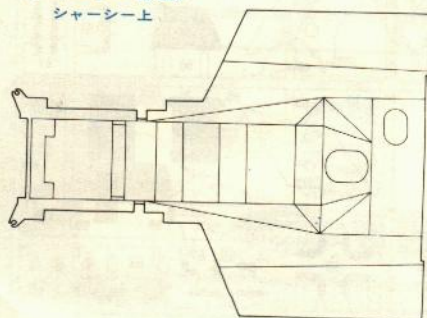


M 部 品

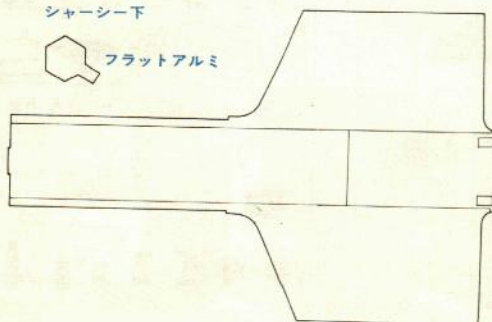
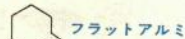


フロントタイヤ..... 4 コ
リヤタイヤ..... 2 コ
ビニールコード
ビニールパイプ
透明パイプ

《シャーシー部品》
シャーシー上



シャーシー下



1/12, 1/20 J.P.S. Mk.III ロータス78



1/12 フェラーリ312T4



1/12 ルノーRE-20ターボ



万一不良部品、不足部品などありました
場合には、当社アフターサービス係
までご連絡下さい。
〒422 静岡市恩田原3-7
田宮模型アフターサービス係
☎ 054 (283) 0003

